



OPERATORS MANUAL

Klark Teknik Group,
Klark Teknik Building,
Walter Nash Road,
Kidderminster.
Worcestershire.
DY11 7HJ.
England.

Tel:+44 1562 741515
Fax:+44 1562 745371

Email: sales@ktgplc.com
Website: midasconsoles.com

安全のための重要な指示



これらのシンボルは、電気製品で危険な可能性を警告する国際的に認められたシンボルです。



正三角形の中に稲妻がある図形は、感電の危険がある絶縁していない「危険な電圧」がケース内に存在していることをユーザーに警告しています。



正三角形の中に感嘆符がある図形は、本機器に添付してある取扱説明書に記述してある操作と保守（サービス）に関する重要な指示を読むようユーザーに示しています。

1. これらの手順を読んでください。
2. これらの手順を保管して置いてください。
3. すべての警告を注意してください。
4. すべての手順に従ってください。
5. この機器の近くで水を使わないでください。
6. 乾燥している布切れだけできれいにしてください。
7. 製品のエアースリットを塞がないで下さい。メーカー指示に従って設置してください。
8. 発熱を引き起こす他の機器などの近くに設置しないでください。
9. 電源コネクターのグラウンドタイプや2極タイプでの安全目的は守ってください。2極タイプは、2つのブレードを持ち一方が広がっています。グラウンドタイプのプラグは、2つのブレードと3番目のグラウンド端子を持っています。広いブレードまたは3番目の端子が、安全を提供します。提供されたプラグがあなたのコンセントに適合しない時、電気技師に相談して、古いコンセントを交換してください。
10. 電源ケーブルの上を歩かれたり、特にプラグ、電源タップ、機器からの根元を保護をしてください。
11. 雷雨の間または長い期間使用しないときは、この機器のプラグを抜いてください。
12. すべてのテストを有資格の人員に委託してください。機器の調子が悪い時、パワーサプライコードやプラグなど、液体をこぼされた、または反対に装置にこぼしたり、機器を雨または湿度にさらした、正常を動作をしない、落下した、など、サービスを受ける必要があります。



注：安全部品（コンポーネント）「交換は必ずオリジナル部品で交換してください」

KLARK TEKNIK GROUP

Walter Nash Road, Kidderminster, Worcestershire. DY11 7HJ. England

Tel: (44) (0) 1562 741515. Fax: (44) (0) 1562 745371

Company Registration No: 2414018

KLARK TEKNIK
SIGNAL PROCESSING BY DEFINITION

MIDAS
DESIGNED FOR A PURE PERFORMANCE

適合の告知

私たち, Klark Teknik Group (UK) Plc

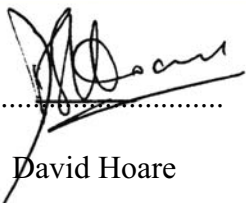
(Klark Teknik Building, Walter Nash Road, Kidderminster, Worcestershire, DY11 7HJ.)

は、以下の製品のサンプルとして宣言します。

Product Type Number	Product Description	Nominal Voltage (s)	Current	Freq
Legend 3000	Professional Audio Mixing Desk	115V AC 230V AC	5.0A 2.5A	50/60Hz

この宣言が参照する 以下の指示書および規格に従ってあります：

Directive(s)	Test Standard(s)
<i>Generic Standard using EN55103 Limits and Methods</i>	<i>EN50081/2</i>
<i>Class B Conduct Emissions</i>	<i>EN55103</i>
<i>Class B Radiated Emissions</i>	<i>EN55103</i>
<i>Fast Transient Bursts</i>	<i>EN61000-4-4</i>
<i>Static Discharge</i>	<i>EN61000-4-2</i>
<i>Basic Electrical Safety</i>	<i>EN60204</i>
<i>LVD</i>	<i>EN60065</i>
<i>Harmonics</i>	<i>EN61000-3-2</i>
<i>Flicker</i>	<i>EN61000-3-3</i>

Signed:.....

Date: 2002/3/19

Name: David Hoare

Authority: Technical Director, Klark Teknik Group (UK) Plc

注意！

購買者、設置者、ユーザーは、これらの機器を使用するには、上記の指示書の指示に従わなければなりません。使用の際にはこれらの特別な規定および制約の詳細は、請求があればお送りしますが、製品の取扱説明書にも記載されています。

注意！

以下の特別な制限はコンソールにあてはまり、安全および電磁気の互換性性能を維持するために観察しなければなりません：

電源の接続

コンソールは、その電源供給コネクタを経由してグラウンドに接地するように接続された電源で操作しなければなりません。

コントロールケーブルの接続

コンソールは高い品質シールドされたコントロールケーブルで操作されなければなりません。すべてのコネクタのシェルは、コンソールに差し込まれた時にシェルがシールドの替りになるように、金属性のコネクタを使用してください。すべてのグラウンド接続は「接続のページ」において示されたようにしなければなりません（次のページ）。

オーディオ信号の接続

コンソールは、高品質のシールドされたペアオーディオケーブルで操作されなければなりません。すべてのコネクタのシェルは、コンソールに差し込まれた時にシェルがシールドの替りになるように、金属性のコネクタを使用してください。すべてのグラウンド接続は「接続のページ」において示されたようにしなければなりません（次のページ）。

電界

もし聴感可能な周波数信号による電磁界においてコンソールが操作されるならば、S/N比率は低下するでしょう。最高60dBの劣化は、極端な条件の下で経験することが出来ます(3V/m、90%変調)。

設置

ミキシングコンソールを設置する時に、考慮する多くのポイントがあります。コンソールが開けられる前に、これらのポイントの多くは認識されていると思いますが、それらを繰り返すことが重要です。

場所

コンソールは、コンソールを置くスペース以上、自由なスペースがある場所に置かれるのが理想です。理想的に、涼しい場所が好まれ、近くに配電機器または他に電位の干渉を起こすソースが置かれることは好まれません。コンサートなどの人が流動的に動く場所では、人員配列をバリエードするようにして人々を防止し、コンソールを取り囲むための壁を作るべきです。

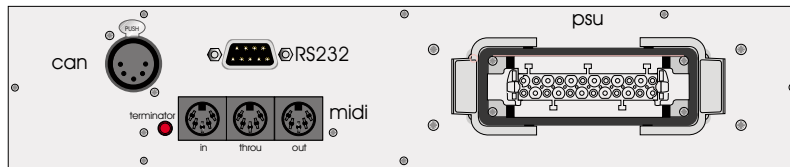
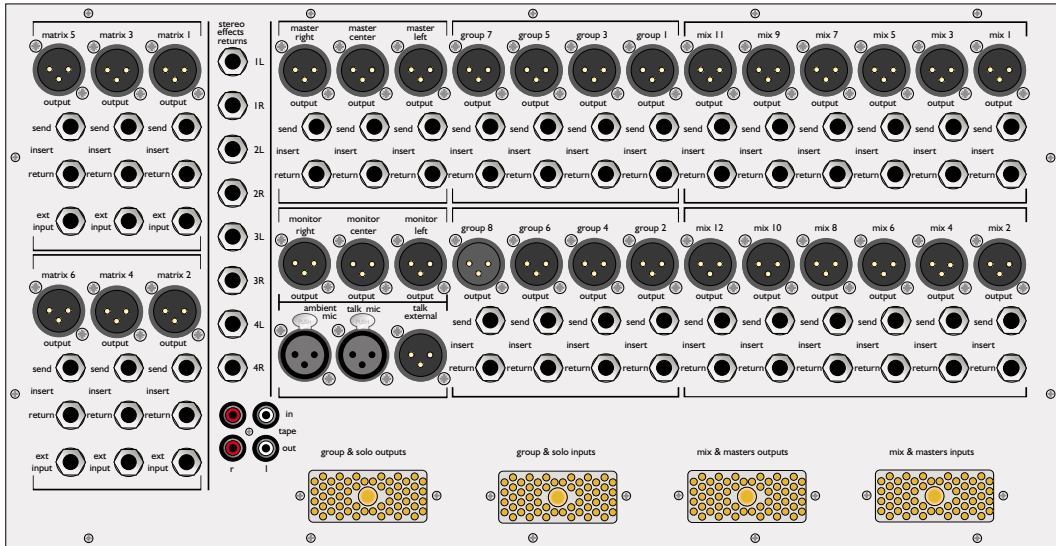
電源

パワーサプライは、コンソールから接続ケーブルが可能な限り遠くに置くことをお勧めします。それは適切な電源電圧であることが確認されてから、供給されたケーブルを使って電源コンセントに差し込むべきです。

電源は、決して、電源アース接続を切り離して操作さしてはなりません。

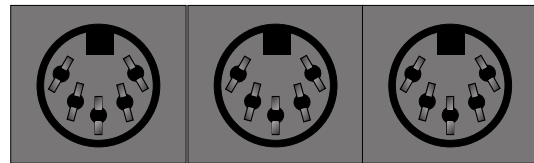
どうぞ、もし短絡するならば、電源が「致命的電圧」を電源電圧の超過に大いに含み、そのレールが、機器と配線を焼き切るかもしれない極めて大きい電流を生み出すことがあることに注意してください。すべてのテストとサービスは、有資格のエンジニアにだけにより受けなければなりません。

LEGEND 3000 接続コネクタ

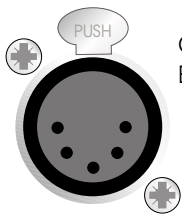


Terminator

コンソールは、Midas Can Busを使って接続できます。ターミネーターを有効にすることはチェーン（コンソールのリンク）の終わりを定義します、送り返してくる、望まない信号を防止します



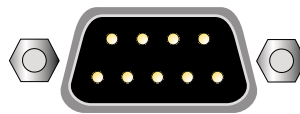
IN	THROU	OUT
MIDI In	MIDI Thru	MIDI Out
Pin 2: Ground	Pin 2: Ground	Pin 2: Ground
Pin 4: In+	Pin 4: In+	Pin 4: In+
Pin 5: In-	Pin 5: In-	Pin 5: In-



CAN BUS

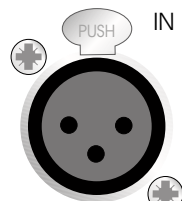
Midas Can Bus

- Pin 1: +18V (100mA max)
- Pin 2: Can low
- Pin 3: OV Can
- Pin 4: Can High
- Pin 5: -18V(100mA max)



RS-232

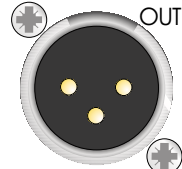
- Pin 2: Receive Data
- Pin 3: Transmit Data
- Pin 5: GND



IN

Input / Output XLR

- Pin 1: Ground
- Pin 2: Hot
- Pin 3: Cold



OUT

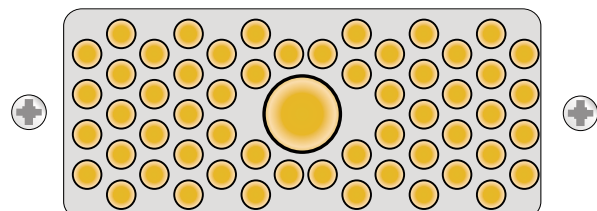


Input Send / Return

- Tip: Hot
- Ring: Cold
- Sleeve: Ground

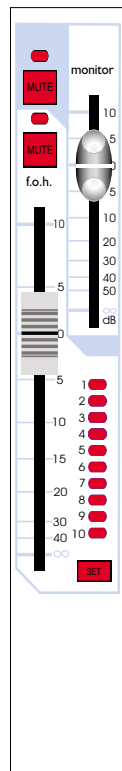
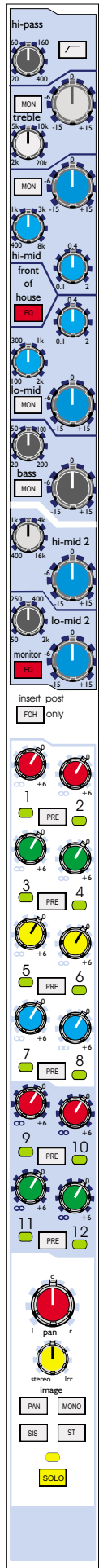
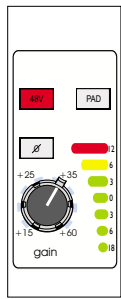
56 Way Edac Connector

(ワイヤーリングは41ページを参照)



内容

Midas L3001 Mono Input Module	Page 1
Input Pod	Page 2
FOH EQ	Page 3
MON EQ	Page 4
Midas L3011 Mix Output Module	Page 9
Meter Section	Page 10
Talk Back Section	Page 11
Mix Section	Page 15
VCA Master Section	Page 18
Midas L3021 Master Module	Page 19
Aux Return Section	Page 20
Group Section	Page 24
Matrix Section	Page 25
Automation Central Control Section	
<i>Assign Keys and Mode Switches</i>	Page 27
<i>Snapshot Automation System</i>	Page 28
Monitor Section	Page 31
Master Section	Page 32
Automation System Control	
Automation System	Page 33
System Layout	Page 34
Menu Overview V1.61	Page 35
Lock States	Page 36
Assign Functions	Page 37
Assigning Automutes to FOH	Page 38
Assigning Automutes to MON	Page 39
Frame layout and Measurements	Page 45
Rear Panel Configuration	Page 47
Edac Wiring Diagram	Page 51
Block Diagrams	Page 53
Overview and Statistics	Page 63
Midas L3750 Power Supply	Page 72
Input Crib Sheet	



Midas L3001 Mono Input Module

Input Pod

48Vスイッチは、48Vファンタム電源をXLR マイク入力コネクタに接続します。これはコンデンサマイクやDIボックスを動作させることができます。パラレル入力のライン入力ジャックは、48Vファンタム電源から保護されています。

トークバックセクションで48Vファンタム電源をトータルで使用不可能にすることが出来ます - 12ページを参照。

注：- ジャックプラグを接続することにより XLR入力の接続が切り離されます。

PHASEスイッチは、インプットアンプ内の位相を180° 変化させます。

GAINコントロールは、インプットアンプのゲインを+15dBから+60dBまで継続的に調整することができます。

PADスイッチは、30dBのアッテネーターを、高出力マイクロフォンまたはラインレベル信号の接続を可能にするため、入力信号に与えます。

メーターは、メイン (FOH) の入力チャンネルのプリフェーダ信号のピーク信号レベルを表示します。



FOH EQ

HI PASSフィルタコントロールは、20Hzから400Hzまでを継続的に調整することができます。

MONスイッチは、FOH信号ラインだけでなくモニタ信号ラインで動作するように、トレブルEQを接続します。

Treble FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、トレブルイコライザーがonの時、2KHzから20KHzで動作します。Trebleイコライザーは、シェルビングレスポンスEQです。

MONスイッチは、FOH信号ラインだけでなくモニタ信号ラインで動作するように、ハイ/ミッドEQを接続します。

Hi mid FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、ハイ/ミッドイコライザーがonの時、400Hzから8KHzで動作します。

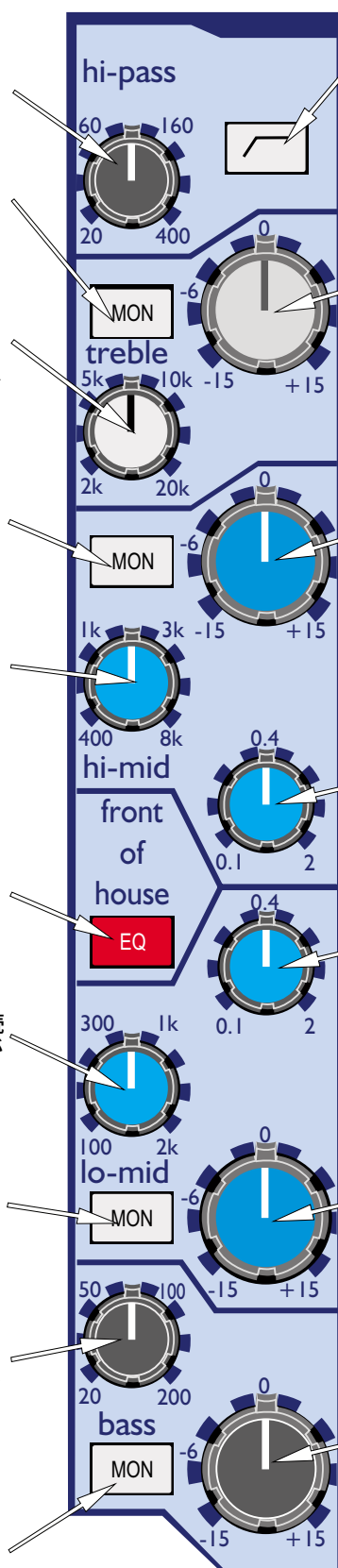
FOH EQスイッチは、フロントオブハウスにイコライザーを接続します。

Lo mid FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、ロー/ミッドイコライザーがonの時、100Hzから2KHzで動作します。

MONスイッチは、FOH信号ラインだけでなくモニタ信号ラインで動作するように、ロー/ミッドEQを接続します。

Bass FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、ベースイコライザーがonの時、20Hzから200Hzで動作します。ベースイコライザーは、シェルビングレスポンスEQです。

MONスイッチは、FOH信号ラインだけでなくモニタ信号ラインで動作するように、ベースEQを接続します。



HI PASSスイッチは、インサートポイントとイコライザーの前に入力チャンネル信号ラインにフィルタを接続します。

注：- このポイントを超えて信号のラインは、2つ分かれまます - FOHと MON

TREBLEコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

HI MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

HI MID WIDTHコントロールは、0.4オクターブをセンター位置としてバンド幅を継続的に0.1オクターブから2オクターブまで調整をすることができます。

LO MID WIDTHコントロールは、0.4オクターブをセンター位置としてバンド幅を継続的に0.1オクターブから2オクターブまで調整をすることができます。

LO MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

BASSコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

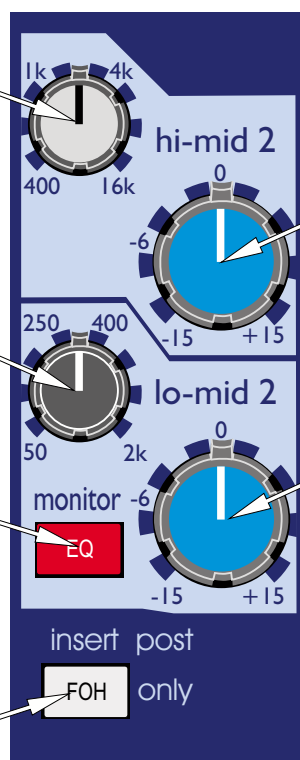
MON EQ

Hi mid FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、ハイ/ミッドイコライザーがonの時、400Hzから16KHzで動作します。

Lo mid FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、ロー/ミッドイコライザーがonの時、50Hzから2KHzで動作します。

MON EQスイッチは、このセクションの2つのステージをモニタ信号ラインにイコライザーを接続します。

インサートは、通常pre EQとなっていますが、インサートPOST (FOHだけ) スイッチは、FOH EQのポストに、インサートポジションを変更することができます。(ただし、モニター信号ラインには作用しません)。



HI MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

LO MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

AUXコントロール（1から12）は、入力チャンネルからauxバスに送るレベルを継続的に調整することができます。レベル調整は+6dBからオフまでです。すべてのauxバスは、信号をFOH信号ラインまたはMON信号ラインから引き出すために両方に割り当てられます。これを切り換えるスイッチは、ミックスアウトプットモジュールに置かれています。



AuxルーティングのON/OFF切り替えは、コンソールのアジャストメントシステムを使って行ないます。auxコントロールノブの下にあるルーティングLEDは、状態を表示します。赤の時はポストフェーダ、そして緑の時はプリフェーダを示します。割り当てのON/OFFは、スナップショットシーンの一部として記憶することができます。

aux PREスイッチは、post faderからpre faderに、auxバスに送られる信号を変更します。またこれは、バスルーティングのLEDの色を赤に変えることにより確認することができます。

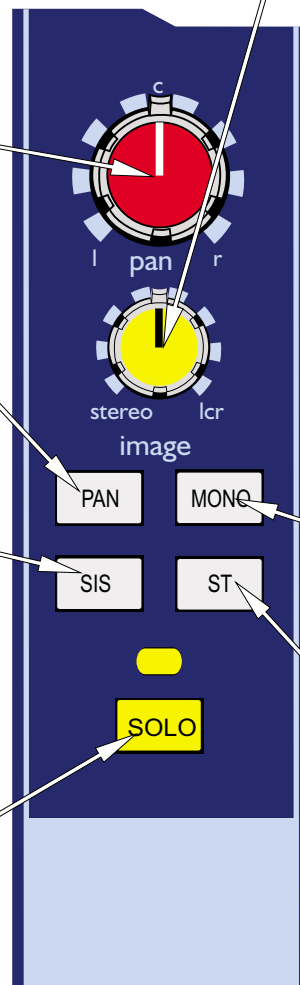
SISシステムがアクティブな時には、IMAGEコントロールは、チャンネルの3つのスピーカーステム内への配分をパンコントロールの調整で修正できます。イメージコントロールが右に回しきった時は、パンコントロールは完全に左、センター、右で動作します。パンをセンターに合わせたなら信号はセンタースピーカーにだけ送られ、左または右のアウトプットからは出力されません。イメージコントロールが左に回しきった時には、パンコントロールは、ステレオ効果となり、パンをセンターに合わせたならば信号は左右のスピーカーに等しいパワーで送られるようになります。すべての他のイメージコントロールポジションでは、センターイメージフォーカスとスピーカーパワーの最適な程度が得られるように、ステレオとLCRパンシステムの合成を生み出すことが出来ます。イメージコントロールおよびパンコントロールの両方がセンターにある時には、チャンネルは等しいパワーによって3本のスピーカーに出力されます。

PANは、マスターステレオミックス内のチャンネル信号配分をコントロールするために、通常一定のパワー法則を持っています。センターポジションの-3dBです。

PANスイッチは、すべてのグループバスの割り当てをステレオのパンポットを経由して動作するように変更します。

SISスイッチは、左、センター、右のマスターミックスを作り出すためにパンコントロールと連携して作用する音の空間イメージコントロールシステムを可能にします。

SOLOスイッチは、入力モニターチャンネル信号をMON PFL/AFLバスに送り、入力FOHチャンネル信号をFOH PFL/AFLステレオバスに送ります。もしスイッチを短い時間押したなら、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にチャンネルのソロは解除されます。デフォルトとして、ソロのシステムは、個々の新しいソロの最後をキャンセルすることで自動的にキャンセルされます。マスターモジュールのSOLO ADDモードスイッチはオートキャンセルを解除して、複数のチャンネルモニターを行う事ができます。もしマスターモジュールのSOLO SISが有効であるなら、FOHソロバスは、LCRオペレーションに切り替わります。



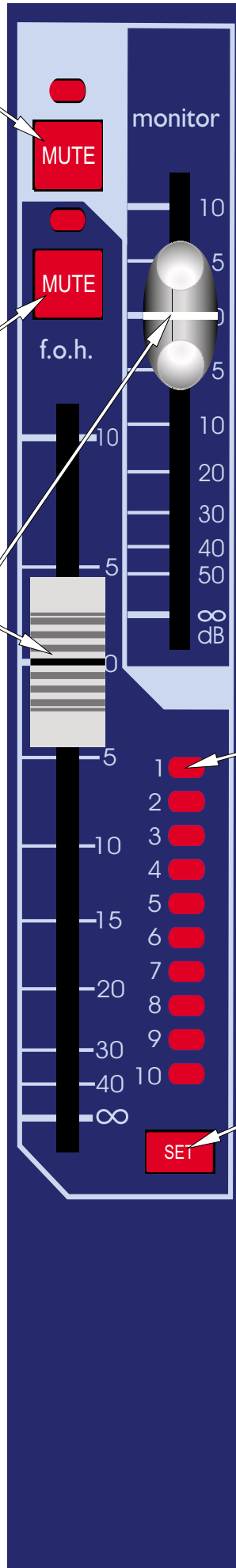
MONOスイッチは、ポストフェーダチャンネル信号をmonoマスターバスに接続します。

STスイッチは、ポストフェーダチャンネル信号をパンコントロールを経由してマスターステレオバスに接続します。

MON MUTEスイッチは、インサートセンドの後のモニター入力チャンネル信号ラインを完全にミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールできます。

FOH MUTEスイッチは、インサートセンドの後にFOH入力チャンネル信号ラインを完全にミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールできます。

MONとFOH FADERSは、+10dBからオフまででモニターとFOH入力チャンネルレベルを独立して調整することができます。



10個のアサインLEDは、VCA-FOH、VCA-MON、およびAUDIOグループの割り当ての状態を示すために使用されます。セントラルコントローラMODEは、4つの使用可能な状態をトグルして切り替えます。(4番目の状態のAUXは、AUXコントロールの近くで表示されます)

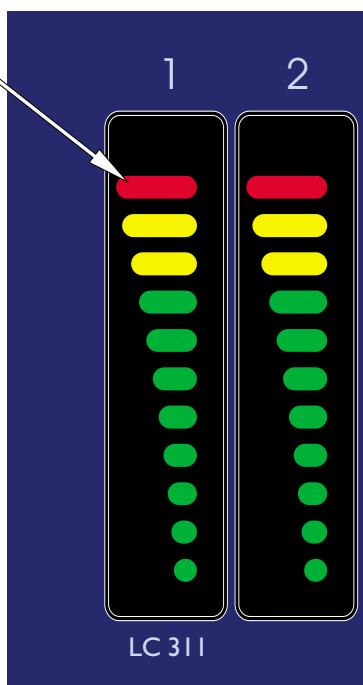
スイッチは、入力チャンネルのAUX、VCA-FOH、VCA-MON、およびAUDIOグループアサインのプログラムを作るために使用されます。セントラルコントローラMODEスイッチとASSIGNキーの必要なアサイン機能を選び、そして、SETスイッチはトグルで個々のチャンネルのオン/オフを交互に設定することができます。



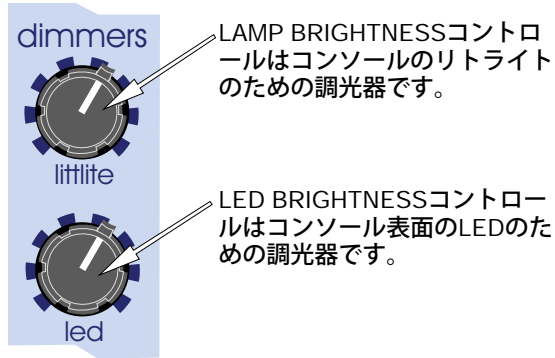
「module disable (モジュールの使用不可)」は正常な使用のために意図的に使用するものではありません。しかし、もしオートメーションシステムが上手く行かず、このスイッチは、望まれないシーンのアップデートを止めて、モジュールをデフォルト状態にセットする時に使用します。

Meter Section

METERは、ポストフェーダのミックスアウトプットのピーク信号レベルを表示します。



Talk Back Section

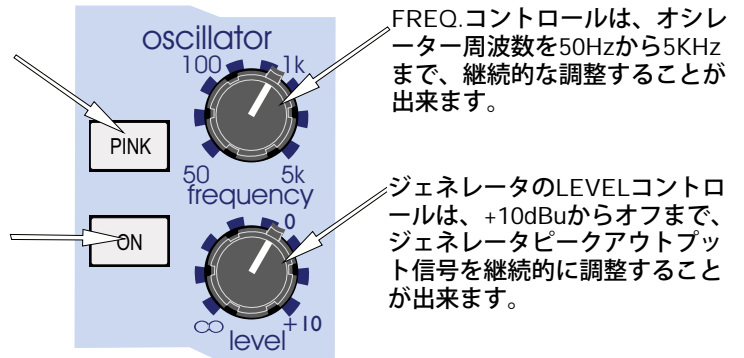


LAMP BRIGHTNESSコントロールはコンソールのリトライトのための調光器です。

LED BRIGHTNESSコントロールはコンソール表面のLEDのための調光器です。

PINK スイッチは、ピンクノイズを出力してオシレーターを無効にします。

GENERATORオンスイッチは、ジェネレータ信号を出力しコンソールの内部のトークバスとトーク外部アウトプットのXLRと接続します。



FREQ.コントロールは、オシレーター周波数を50Hzから5KHzまで、継続的な調整することができます。

ジェネレータのLEVELコントロールは、+10dBuからオフまで、ジェネレータピークアウトプット信号を継続的に調整することができます。

テープインプットは給送装置がアンバランスであるphonoソースからステレオとmonoマスターバスに提供することができます。

テープのSTスイッチは、テープインプットをステレオのマスターバスに接続することができます。

テープのMONOスイッチは、テープインプットをmonoマスターバスに接続することができます。

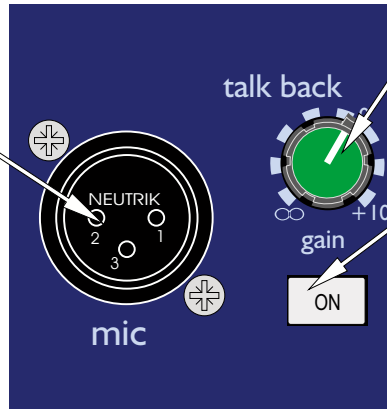


ST LEVELコントロールは+10からオフまでの名目上の調整をすることができます。

MONO LEVELコントロールは+10からオフまでの名目上の調整をすることができます。



TALK XLRソケットは、バランス150オームのマイクロフォン信号に適応します。マイクロフォンのアンプゲインは、工場で50dBに設定され、+10dBuにセットされるピークリミッターと連携して動作します。



トークLEVELは、+10dBからオフまでのリミッター信号後のレベルを継続的に調整することが出来ます。

XLR TALK MICオンスイッチは、トークマイクアウトプット信号をコンソールの内部のトークバスと外部トークアウトプットXLRと接続します。同時に、それは、まわりのハウリングを防止するために、すべてのローカルモニタアウトプットのレベルを20dB減衰させるように働きます。

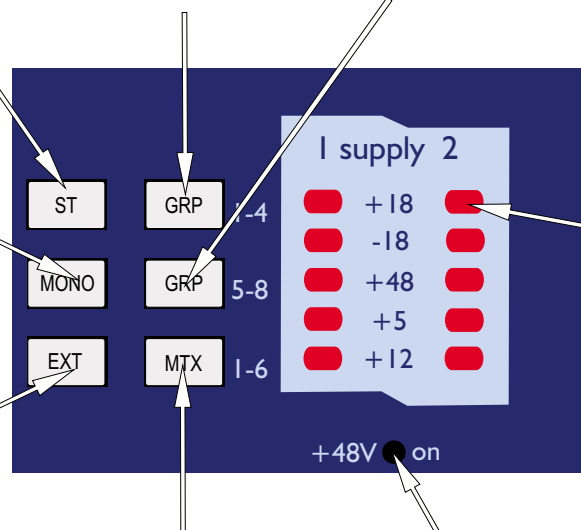
トークGRP1-4スイッチは、グループの1、2、3、および4のバスに、トークマイクとジェネレータ回路を接続します。

トークGRP5-8スイッチは、グループの5、6、7、および8のバスに、トークマイクとジェネレータ回路を接続します。

トークSTスイッチは、トークマイクとジェネレータ回路をステレオのマスタバスに接続します。

トークMONOスイッチは、トークマイクとジェネレータ回路をmonoマスターバスに接続します。

トークEXTスイッチは、トークマイクとジェネレータ回路を外部のアウトプットに接続します。



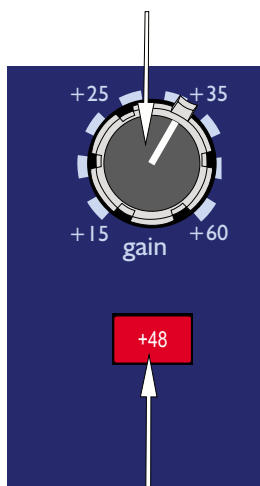
POWERインジケータは接続されている両方のパワーサプライのすべての供給状態を示します。

トークMTXスイッチは、トークマイクとジェネレータ回路をすべてのマトリックスバスに接続します。

48Vオンスイッチはインプットモジュールと48Vとの接続を作動（または安全をとる）させることが出来ます。



アンビエンスGAINコントロールは、アンビエンス用マイクのアンブゲインを+15dBから+60dBまで、継続的に調整することが出来ます。

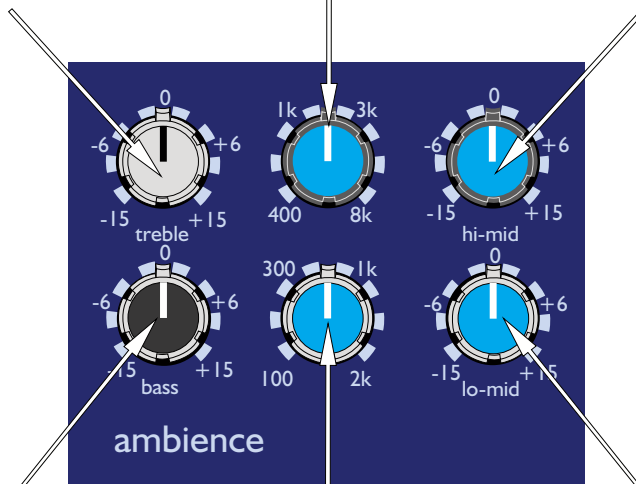


48Vスイッチは、48ボルトファンタム電源をアンビエンスXLRマイクインプットコネクタに供給します。

ハイ/ミッドFREQ.コントロールは、周波数を継続的に調整することができ、ハイ/ミッドイコライザーがオンの時に400Hzから8KHzで作動します。

TREBLEコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、トレブルイコライザーを+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

HI MID コントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。



BASS コントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、ベースイコライザーを+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

LO MID コントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

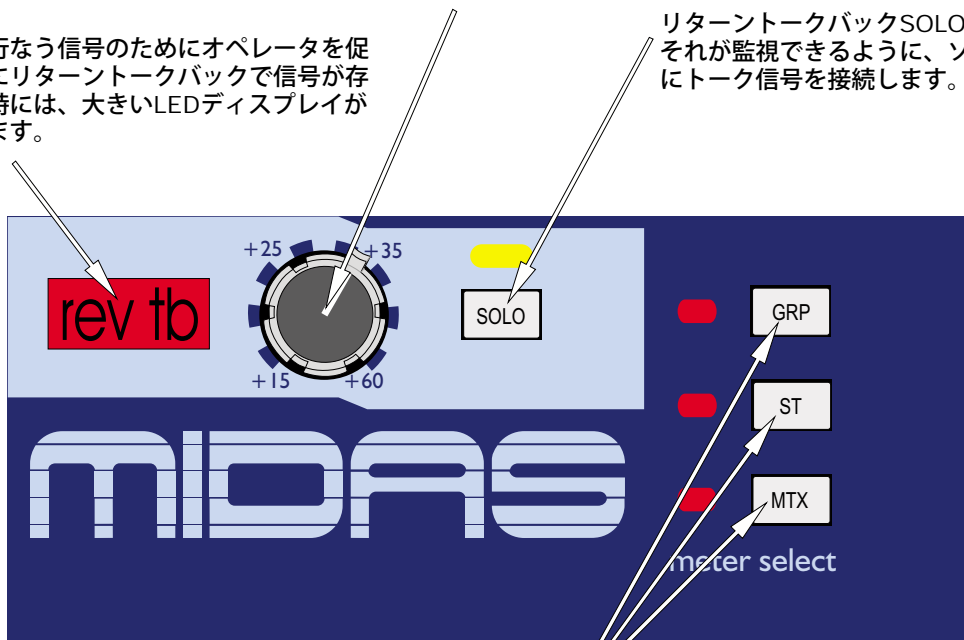
ロー/ミッドFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ロー/ミッドイコライザーはオンの時100Hzから2KHzで作動します。



リターントークバックGAINコントロールは、トークバックマイクアンプゲインを+15dBから+60dBまで継続的に調整することができます。48Vファンタム電源はこのXLRインプットコネクタに供給しています。

ソロを行なう信号のためにオペレータを促すためにリターントークバックで信号が存在する時には、大きいLEDディスプレイが点灯します。

リターントークバックSOLOスイッチは、それが監視できるように、ソロのバスの上にトーク信号を接続します。



METER SELECTORスイッチは、グループ、ステレオリターン、またはマトリックス信号を監視するために、マスターマーターを切り換えます。



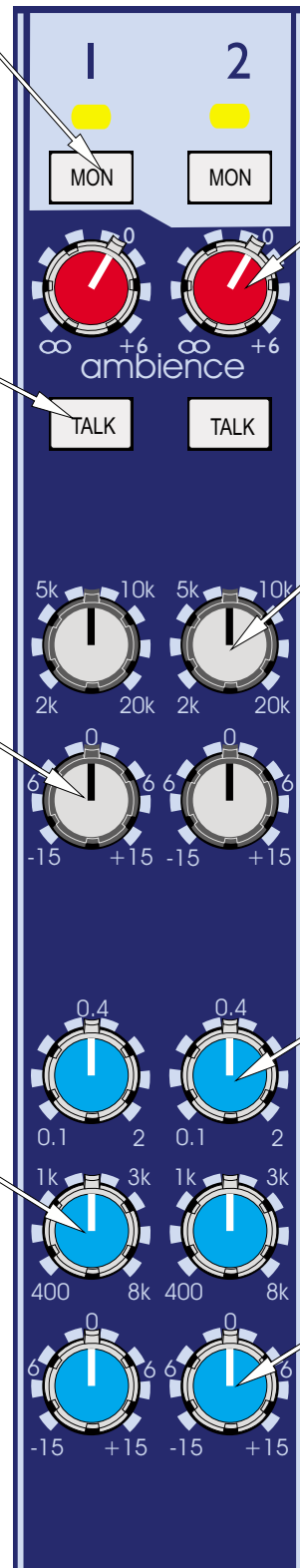
Mix Section

MONスイッチは単一のミックスバスを全体的に切り替える動作をします。それは、すなわち、フロントオブハウス信号ラインの代わりにモニター信号ラインを引き出し、入力モジュールとステレオAUXリターンモジュールの送りを切り換えます。

TALKスイッチは、トークマイクとジェネレータの回路をスイッチの押されたミックスバスに接続させることができます。

TREBLEコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

ハイ/ミッドFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ハイ/ミッドイコライザーはオンの時400Hzから8KHzで作動します。



AMBIENCEレベルコントロールは、ミックスバスにボード上のマイクアンプを経由した外部のマイクロフォンからの信号をミックスするための方法を提供します。コントロールは+6dBからオフまでを継続的に調整することが出来ます。

Treble FREQ コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、トレブルイコライザーがonの時、2KHzから20KHzで動作します。Trebleイコライザーは、シェルビングレスポンスEQです。

HI MID WIDTHコントロールは、0.4オクターブをセンター位置としてバンド幅を継続的に0.1オクターブから2オクターブまで調整をすることができます。

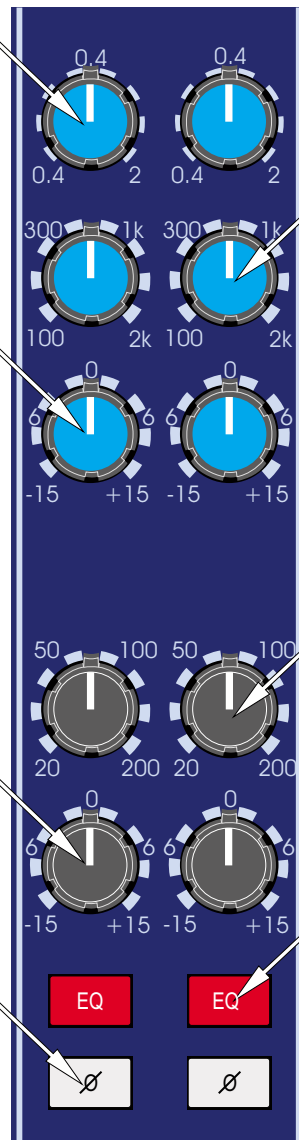
HI MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

LO MID WIDTHコントロールは、0.4オクターブをセンター位置としてバンド幅を継続的に0.1オクターブから2オクターブまで調整をすることができます。

LO MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

BASSコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

PHASEスイッチは、ポストフェーダ信号ライン以降で180度位相を変化させる事ができます。



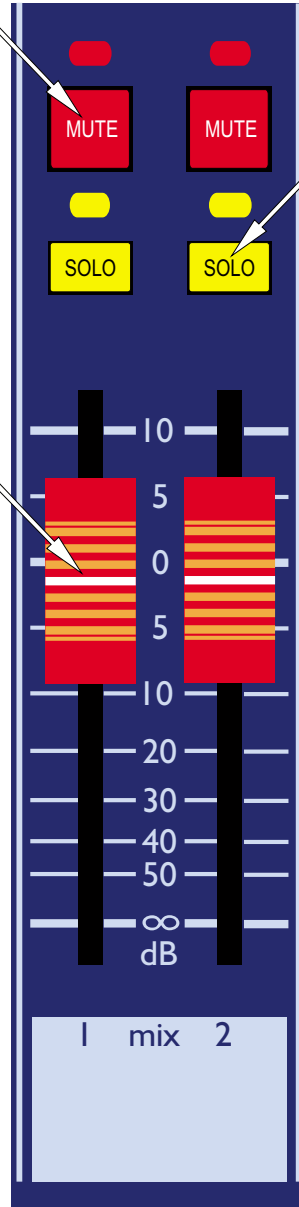
ロー/ミッドFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ロー/ミッドイコライザーはオンの時100Hzから2KHzで作動します。

ベースFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ベースイコライザーはオンの時20Hzから200Hzで作動します。ベースイコライザーはシェルビングレスポンスEQです。

EQスイッチはミックスアウトプット信号ラインにイコライザーを接続します。

MUTEスイッチはミックスアウトプットをミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールできます。

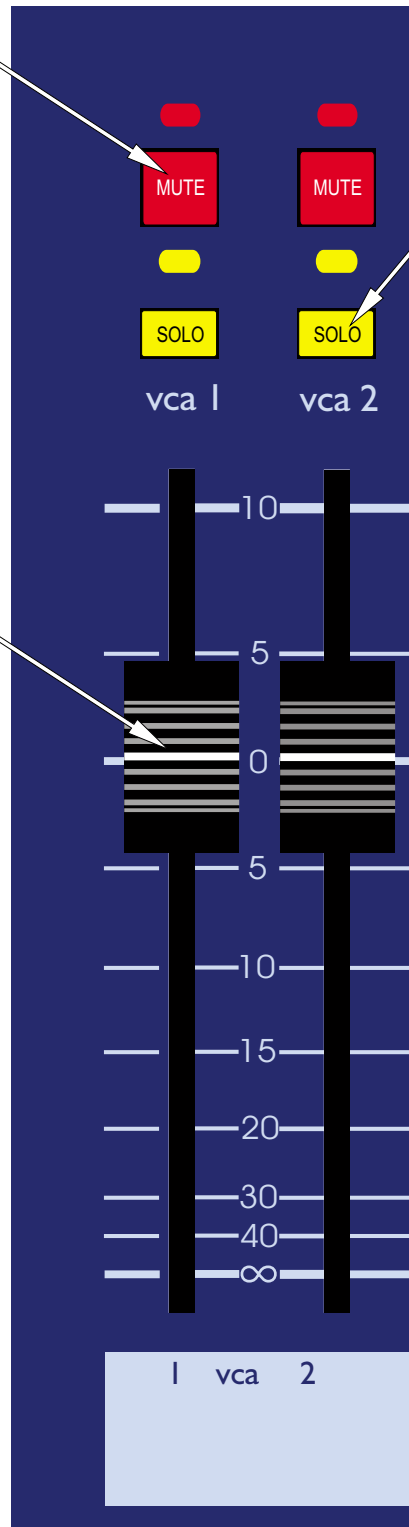
MIX FADERは+ 10dBからオフまでミックスレベルを継続的に調整をすることが出来ます。



SOLOスイッチは、ミックス信号をMON PFL/AFLバスとFOH PFL/AFLステレオバスに送ります。もしスイッチを短い時間押したなら、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にチャンネルのソロは解除されます。デフォルトとして、ソロのシステムは、個々の新しいソロの最後をキャンセルすることで自動的にキャンセルされます。マスタモジュールのSOLO A/Dモードスイッチはオートキャンセルを解除して、複数のチャンネルモニターを行う事ができます。

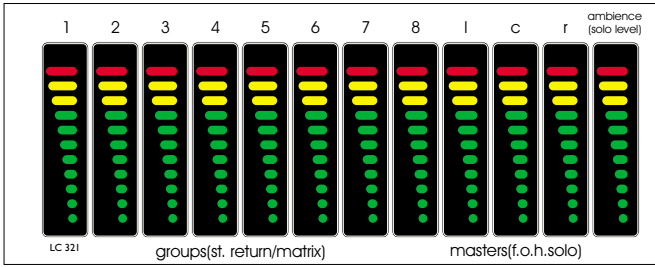
VCA Master Section

VCA MUTEスイッチは、VCAマスターにアサインされた入力チャンネルのプリとポストフェーダ信号のどちらでも作用します。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールできます。もし、MUTEを独立したAUTO MUTEスイッチとして作用するように要求するならば、変更できません。これはセントラルオートメーションコントロールでSYSTEMメニューのセットアップで行なえます。

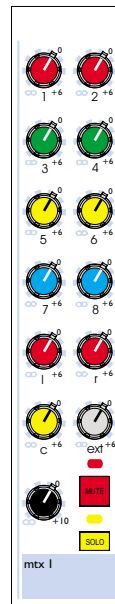
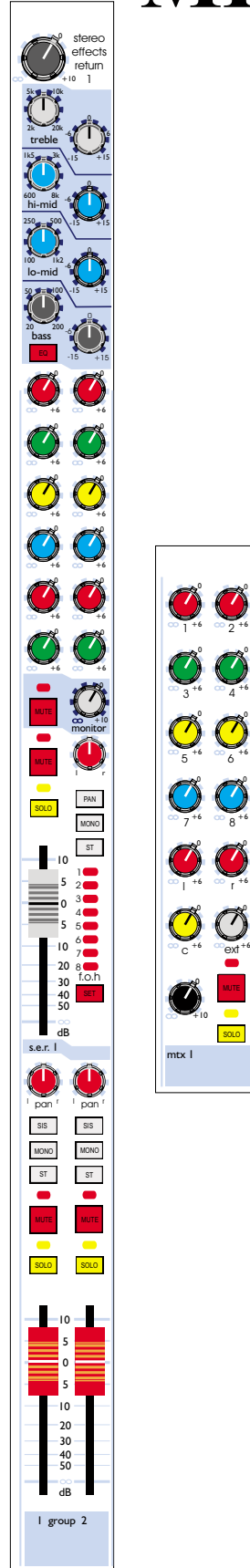
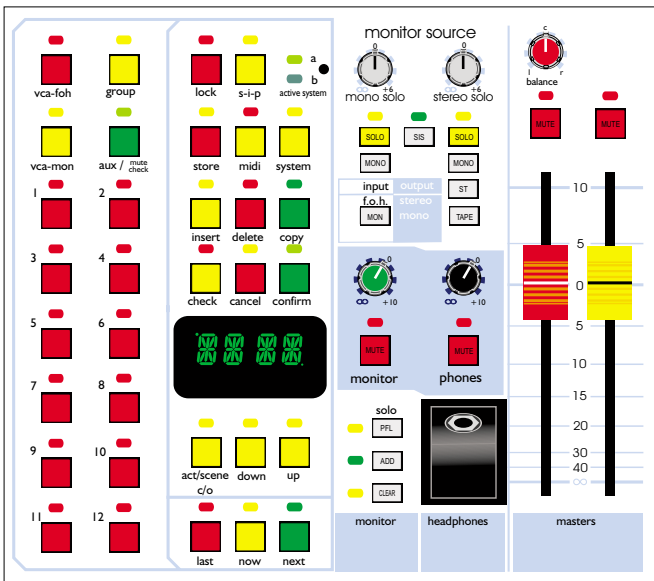


VCA SOLOスイッチは、VCAマスターにアサインされたすべての入力チャンネルから構成されるソロのバスミックスを作成してVCAマスターフェーダをモニターするために使用出来ます。もしスイッチを短い時間押したならば、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にソロは解除されます。SOLO ADD MODEの入力チャンネルにコンソールが動作している時でもVCAソロは優先され動作し、一時的にそれらを無効にします。

VCA MASTER FADERは、VCAマスターにアサインされた入力チャンネルのアウトプットレベルを+10dBからオフまでコントロールすることが出来ます。

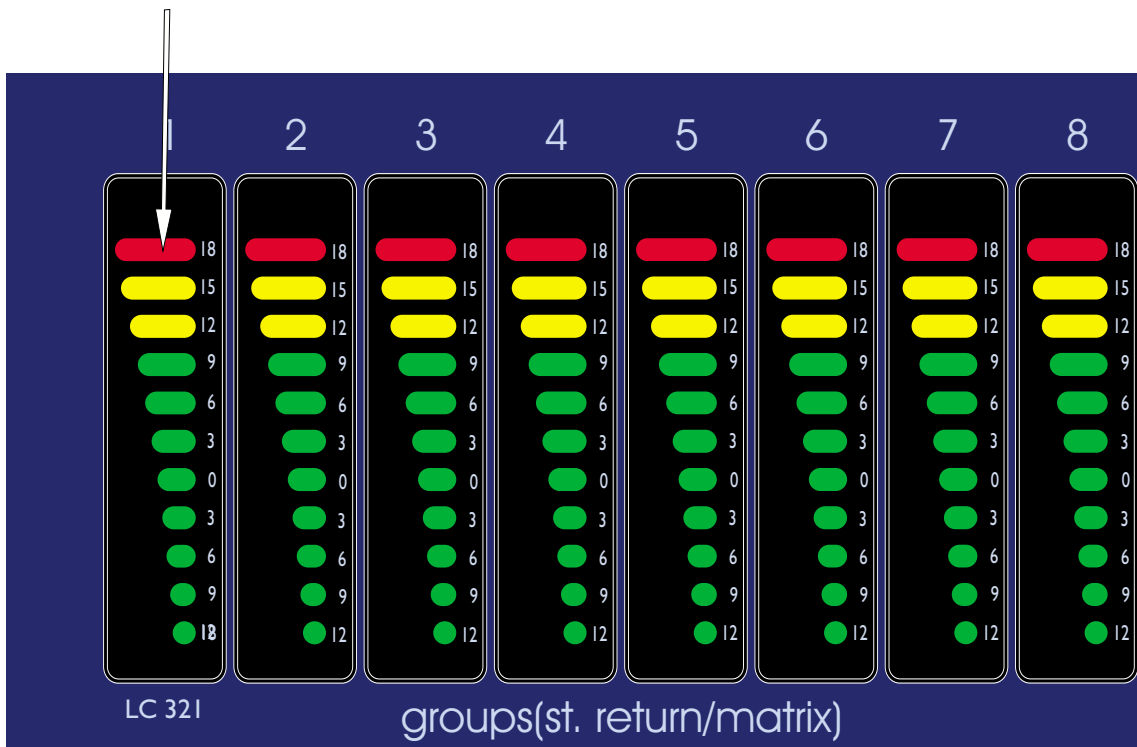


MIDAS L3021 Masters Module



Aux Return Section

METERは、グループ、ステレオリターン、またはマトリックス信号のピーク信号レベルを監視することが出来ます。選択は、アウトプットモジュールのトークバックセクションのメーター選択スイッチで行なえます。



STEREO EFFECTS RETURN LEVELコントロールはインプット信号のレベルを+10からオフまで調整することができます。

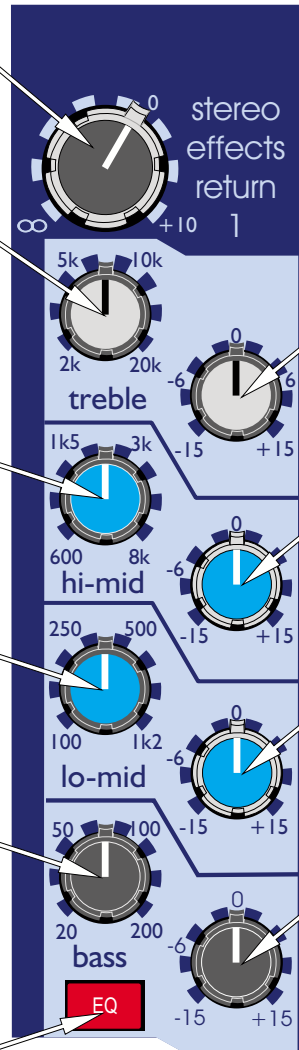
Treble FREQ.コントロールは周波数範囲を継続的に調整が可能で、トレブルイコライザーがonの時、2KHzから20KHzで動作します。Trebleイコライザーは、シェルビングレスポンスEQです。

ハイ/ミッドFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ハイ/ミッドイコライザーはオンの時600Hzから8KHzで作動します。

ロー/ミッドFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ロー/ミッドイコライザーはオンの時100Hzから1.2KHzで作動します。

ベースFREQ.コントロールは周波数を継続的な調整を与え、ベースイコライザーはオンの時20Hzから200Hzで作動します。ベースイコライザーはシェルビングレスポンスEQです。

EQスイッチはエフェクトリターン信号ラインにイコライザーを接続します。



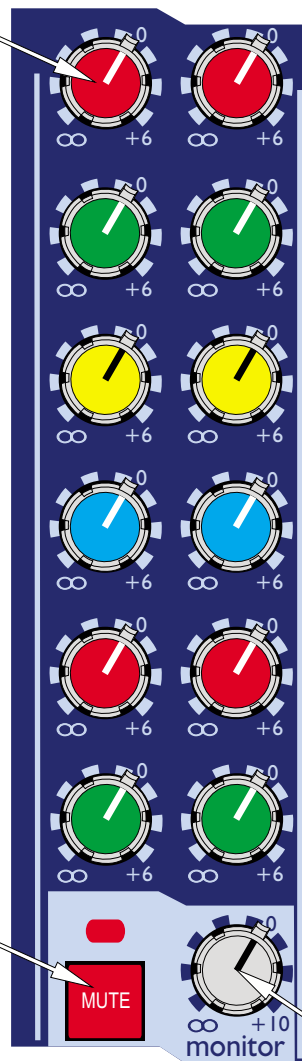
TREBLEコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

HI MIDコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

LO MID コントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBまでブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

BASSコントロールは、0dBにセンタークリックを持ち、+15dBから-15dBのブーストとカットを継続的に調整をすることができます。

AUXコントロール（1から12）は、ステレオエフェクトリターンからauxバスへ送るレベルを継続的に調整することが出来ます。レベル調整は+6dBからオフまでです。すべてのauxバスは、信号をFOH信号ラインまたはMON信号ラインから引き出すために全体的に割り当てられます。この切り換えるは、ミックスアウトプットモジュールに置かれています。



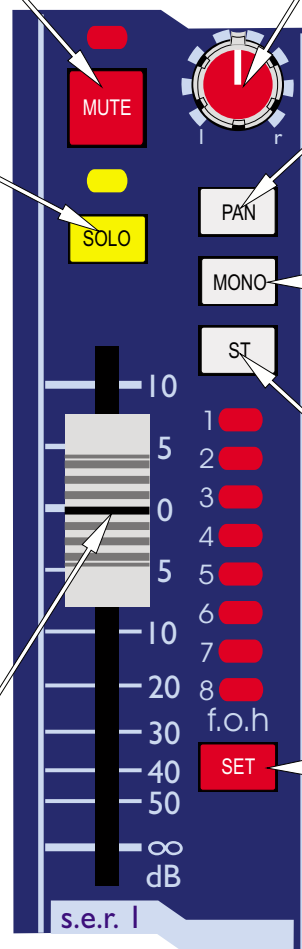
MON MUTEスイッチはステレオエフェクトリターンのモニター信号ラインを全てのポイントで完全にミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールすることが出来ます。

MON LEVELコントロールは、+10dBからオフまでステレオエフェクトリターンモニター信号を独立して調整することが出来ます。

FOH MUTEスイッチは、FOHステレオエフェクトリターン信号ラインを全てのポイントで完全にミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールすることが出来ます。

SOLOスイッチは、ステレオエフェクトリターンのモニターチャンネル信号をMON PFL/AFLバスに送り、FOHステレオエフェクトリターン信号をFOH PFL/AFLステレオバスに送ります。もしスイッチを短い時間押したなら、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にチャンネルのソロは解除されます。デフォルトとして、ソロのシステムは、個々の新しいソロの最後をキャンセルすることで自動にキャンセルされます。マスタモジュールのSOLO ADDモードスイッチはオートキャンセルを解除して、複数のチャンネルモニターを行なう事ができます。

FOH FADERSは、FOHステレオエフェクトリターンレベルを+10dBからオフまで独立して調節することが出来ます。



PANは、マスタステレオミックス内のチャンネル信号配分をコントロールするために、通常一定のパワー法則を持っています。センターポジションの-3dBです。

PANスイッチは、すべてのグループバスの割り当てをステレオのパンポットを経由して動作するように変更します。

MONOスイッチは、ポストフェーダのステレオエフェクトリターン信号をmonoマスターバスに接続します。

STスイッチは、ポストフェーダのステレオエフェクトリターン信号をパンコントロールを経由してマスタステレオバスに接続します。

SETスイッチは、ステレオエフェクトリターンのオーディオグループアサインのプログラムを作るために使用します。センターのコントローラMODEスイッチとASSIGNキーは、設定したいオーディオのグループを選び、個々のステレオエフェクトリターンのSETスイッチは押すごとにON/OFFが交互に代り、バスにアサインすることを決めることが出来ます。

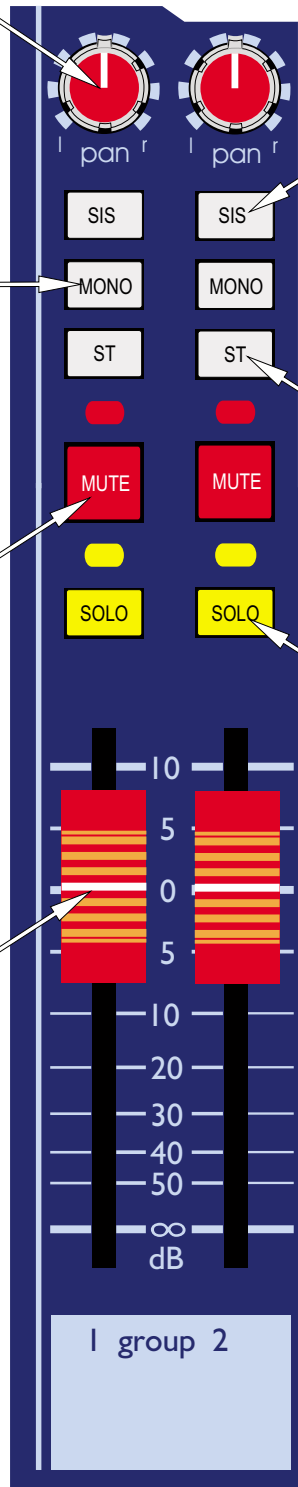
Group Section

PANは、通常マスターステレオミックス内のグループ信号配分をコントロールするために、一定のパワー法則を持っています。センターポジションの-3dBです。

MONOスイッチは、ポストフェーダグループ信号をmonoマスターバスに接続します。

MUTEスイッチは、インサートセンドの後のグループ信号ラインをミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコン

グループFADERは+10dBからオフまでグループレベルの調整を行う事ができます。



SISがアクティブな時には、パンコントロールは、3のスピーカーシステム内にグループを置くために切り替わります。

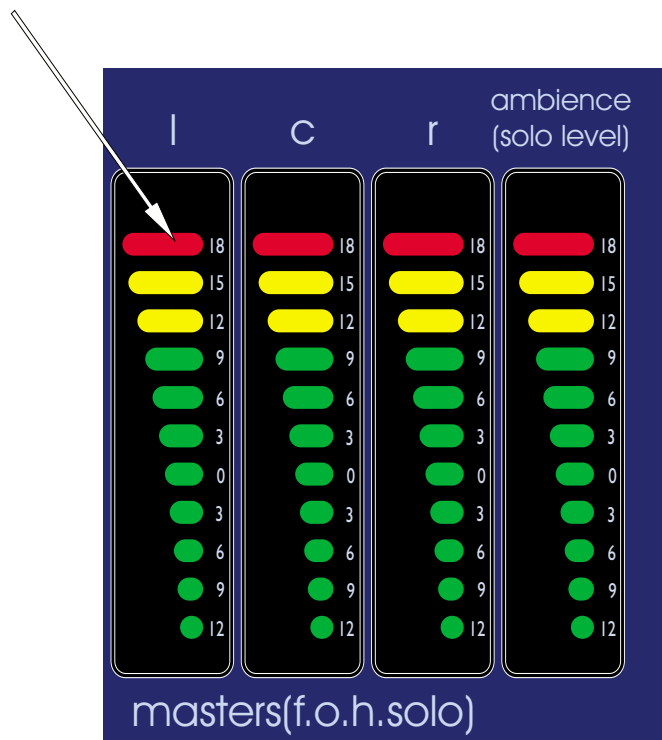
STスイッチは、ポストフェーダグループ信号をパンコントロールを経由してマスターステレオバスに接続します。

SOLOスイッチは、グループ信号をMON PFL/AFLバスとFOH PFL/AFLステレオバスに送ります。もしスイッチを短い時間押したなら、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にチャンネルのソロは解除されます。デフォルトとして、ソロのシステムは、個々の新しいソロの最後をキャンセルすることで自動的にキャンセルされます。マスタモジュールのSOLO ADDモードスイッチはオートキャンセルを解除して、複数のチャンネルモニターを行なう事ができます。

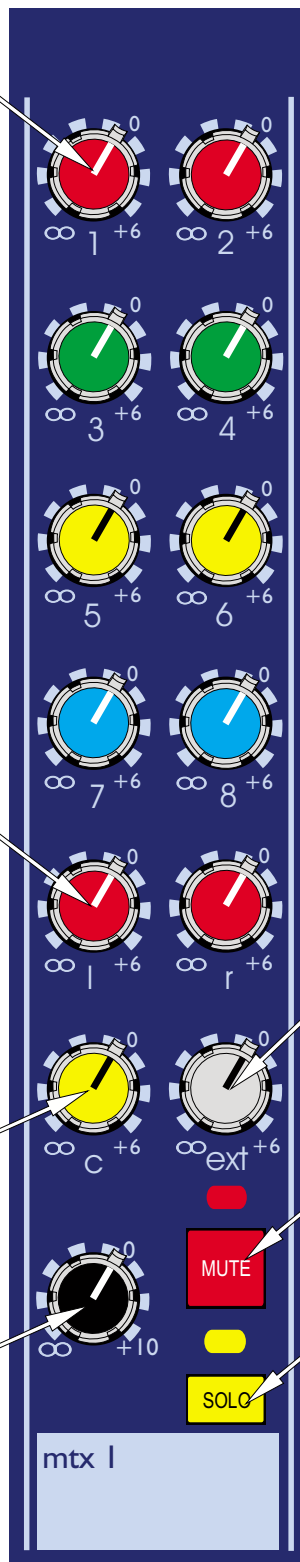
Matrix Section

マトリックセクションのすぐ上にあるMETERSは、マスターとソロモニターのピーク信号レベルを監視するために使用されます。メーターセクションは通常、マスターのL、C、R、とおよびアンビエンス入力が表示されていますが、ソロが有効になった時は、FOHソロのL、C、R、とモニターソロレベルの表示に切り替わります。もしソロが、プリフェーダであるならば、メーターはこの選択はまだ継続され、プリフェーダで監視されます（monoにおいて）。

ミックスアウトプットセクションでグループメーターは表示されてます。



MATRIX SENDボリュームコントロール（1から8）は、グループアウトプットからマトリックスバスに送るレベルを継続的に調整が行なえます。レベルの調整は+6dBからオフまでです。



LEFT/RIGHTボリュームコントロールは、L/Rのマスターアウトプットからマトリックスバスに送るレベルを継続的に調整が行なえます。レベルの調整は+6dBからオフまでです。

CENTRE (mono) ボリュームコントロールは、monoマスターアウトプットからマトリックスバスに送るレベルを継続的に調整が行なえます。レベルの調整は+6dBからオフまでです。

マトリックスLEVELコントロールは+10dBからオフまでアウトプットレベルを継続的に調整することが出来ます。

EXTインプットコントロールは、+6dBからオフまでダイレクトインプットのレベルを継続的に調整することが出来ます。信号はマトリックスバスにサミングされます。

MUTEスイッチはマトリックスのポストレベルコントロールの信号をミュートします。スイッチはスナップショットオートメーションからコントロールできます。

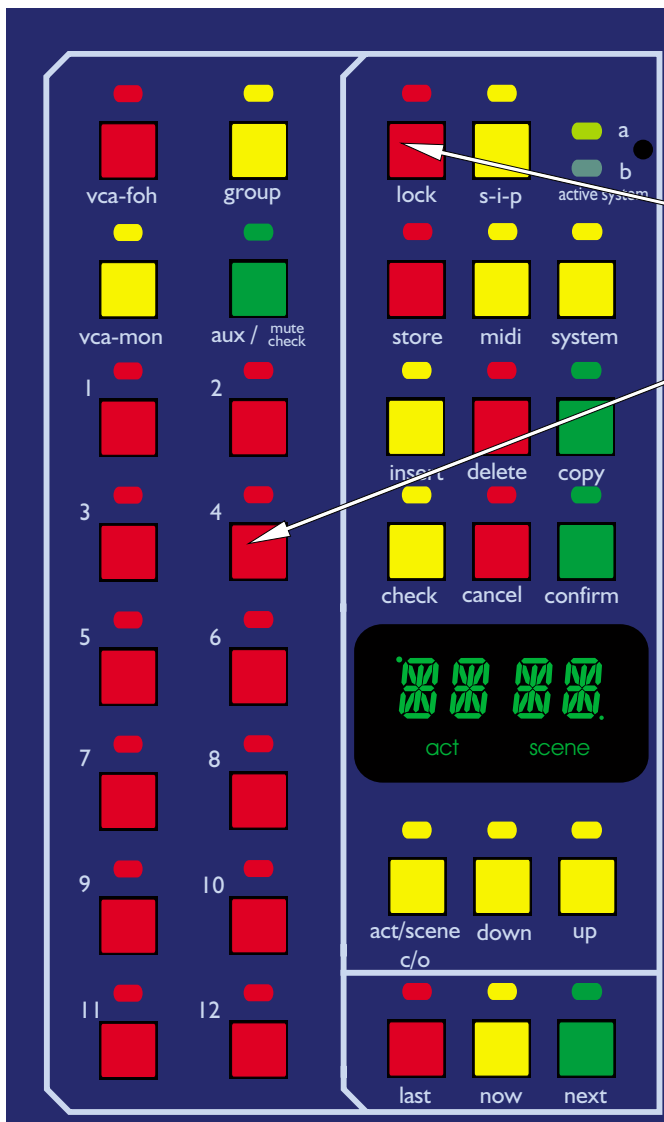
SOLOスイッチは、マトリックス信号をMON PFL/AFLバスとFOH PFL/AFLステレオバスに送ります。もしスイッチを短い時間押したなら、オンまたはオフにラッチが掛かります。しかし、もし1秒以上スイッチを押した状態を保った時は、ラッチは掛からず、離された時にチャンネルのソロは解除されます。デフォルトとして、ソロのシステムは、個々の新しいソロの最後をキャンセルすることで自動的にキャンセルされます。マスタモジュールのSOLO ADDモードスイッチはオートキャンセルを解除して、複数のチャンネルモニターを行なう事ができます。

Automation Central Control Section

Assign Keys and Mode Switches

VCA FOH、VCA MON、GROUP、AUXスイッチは、インプットモジュールのアサインLEDを現在のアサインやディスプレイモードに設定します。デフォルトとして、これらのスイッチは、1つのモードが一度に見られるように連動し、もしそれらを0.5秒以上長く押されたなら、連動が解除されます。これは「クリアなモード」のために使われます（以下を参照してください）。

もしVCA FOHとVCA MONのMUTESを独立して操作するようにVCA（SYSTEMメニューの中で）を選んだなら、それらは3秒間VCA FOHとVCA MONを押し続けることでセレクトすることが出来ます。



ASSIGN KEYSは、個々のチャンネルのSETスイッチと連動してインプットVCAFOH、VCAMON、Group、またはAuxアサインのための設定を次の通り変更するために使用されます：-

ASSIGNMENTモードに入るために、最初にLOCKスイッチを押します（アサインシステムのロックを解除するために）。

必要なグループナンバーを設定するために、ASSIGN KEYSを押してください；長く押すことで、複数のアサインを可能にし、短く押されるなら前の設定はクリアされます。

アサインが必要な入力チャンネルのSETスイッチを押してください。また、これを行なうための2つの方法があります；長く押すことで入力のすべての事前設定を削除し、それらを新しいアサインと交換します；短く押されたなら切り替わり交互にON/OFFしてアサインの設定が出来ます。例えば、もしアサインキー1と2がONであるならば、インプットSETスイッチを押すことで、そのチャンネルのアサイン1と2はOFFからONにどちらも切り替わり、また同時に反対のことも行なえます。

CLEARモードに入るためには、すべてのアサインキーをOFFにします。点灯しているアサインキーをどれか1つ押すことでアサインは全てOFFに切り替わります。

インプットSETスイッチを長く押す操作行なうと、全てのアサインがクリアされます。モードスイッチを使ってクリアするパートを選ぶことができます。例えば、VCAのためにVCAモードを押す、グループプルーティングクリアーのために、GROUPを押す、又は、同時のクリアするため多くのモードを動作させるために、モードスイッチを長く押すことで同時にクリアする設定になります。

Snapshot Automation System

SOLO IN PLACEスイッチは、ソロインプレイスモードに、コンソールをセットします。このモードにおいて、どのインプットソロでも押されたなら、他の全てのチャンネルのミュートを作動させます。ソロインプレイスが誤った操作で動作することを防ぐために、3秒間ボタンを押し続けなければ、このモードは動作しません。

LOCスイッチは、押されるたびにON/OFFを切り換えます。LOCKスイッチが点灯している時には、すべてのアサインは使用することが出来なくなります。また、もし90秒以内にアサインコントロールの操作を行わなければ、コンソールは、ロックされた状態に自動的に戻ります。

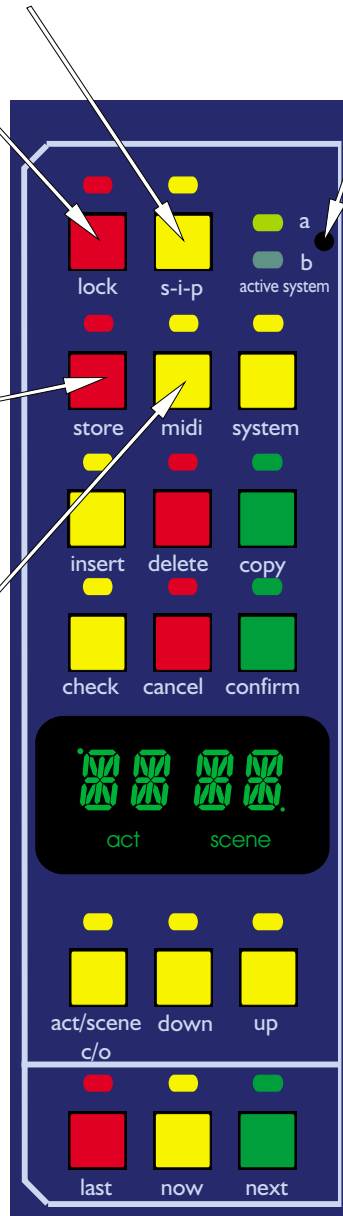
STOREキーを操作することにより、現在のコンソールのアサインと設定は、ディスプレイに表示されているナンバーに保存されます。

MIDIキーは、オペレータが瞬時にMIDI情報を編集することを可能にします。このモードに入るとすぐに、オペレータが、個々のスナップショット内に保存される4つのMIDIメッセージのメニューに到達します、操作はシステムメニューと同様です。

A/Bスイッチは、コンソールアサインとオートメーションシステムをコントロールしているマイクロカードを切り換えることが出来ます。これは主要な機能です！これを切り換える時、コンソール信号のコントロールを定義したものではありません。A/Bスイッチの扱いについては、コンソール電源のON/OFFの時と同じ注意が必要です。

信頼性のために、アサインとオートメーションシステムは、100%複製されています。コンソールはシステムのうちのどちらかを使用していますが、すべてのスナップショットはシステムの両方に必ず保存されます。LEDは、個々のシステムの状態を以下の方法で示す：-

LEDがグリーンの際は、システムが動作中であることを示します。
 LEDがOFFの際は、システムが動作していないことを示します。
 LEDがレッドの際は、システムが損われるか反応しないことを示し、サービスをできるだけ早く受ける必要があります。



システムメニューは、LOCKを含む、コンソール操作のレベルを定義します。

TOTL すべてのオートメーションとアサイン機能は使用不可にします。

A-LK すべてのアサインは動作可能ですが、オートメーション機能は無効になります。

RCAL リコールとアサイン機能だけが有効になります。

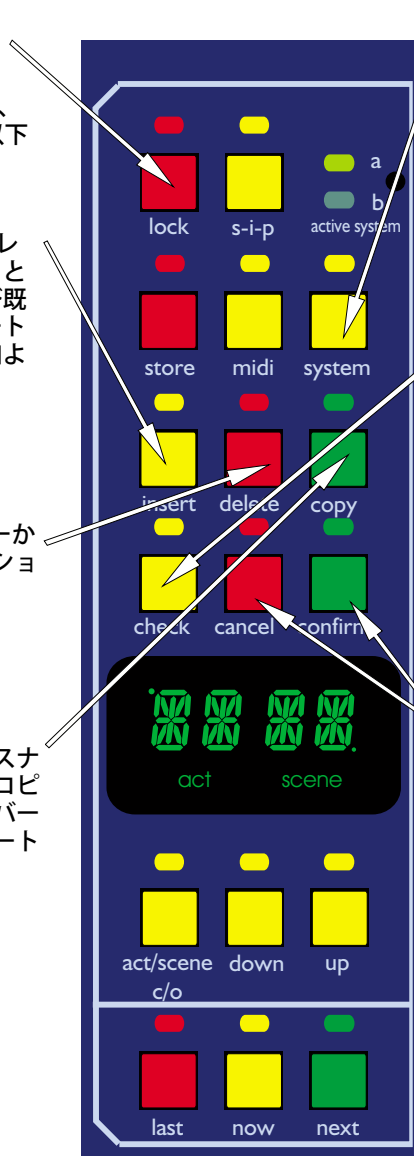
SYS すべての機能が有効になります。

COPY、DELETE、およびインサートキーは、オペレータが連続したスナップショットを以下の方法で編集することを可能にします：-

INSERTを押すことで、表示されるディスプレイナンバーのスナップショットに挿入することを可能にします。オリジナルのナンバー及び既に保存されている全てのシーンは、インサートを行う事で、それらのシーンナンバーの追加より再ナンバーを付けられます。

DELETEは、現在オートメーションメモリーからディスプレイに表示されているスナップショットナンバーのシーンを消去します。

コピー、これは、ディスプレイ表示されたスナップショットを一時的なメモリーの場所にコピーします。これはその時新しいシーンナンバーに通常な方法で保存するか、またはインサートすることが出来ます。



SYSTEMスイッチはオペレータがシステムメニューにアクセスするために使用します。メニューのナビゲーションは、入力を選ぶために、UP/DOWNスイッチを使用する事で入ることができ、選ばれた機能またはサブメニューを実行するには、CONFIRMを押すことによって実行されます。メニューまたはサブメニューを終了するためにCANCELを押します。

CHECKスイッチは、スナップショットに保存されているコンソールの状態を、現在呼び出されている（動作しているシーン）に影響を与えずに、確認することが出来ます。LAST/NEXTスイッチを使用することで、確認したいシーンに到達でき、NOWスイッチで入力チャンネルのミュート状態をコンソール上に示すことを可能にします。CHECKスイッチを再び押すことで、いつでも現在のシーン（動作しているシーン）に戻ることが出来ます。

CONFIRMとCANCELを使用することで、機能を有効にするか、キャンセルするか、またはサブメニューに入るかを選ぶことが出来ます。

スナップショットはACTまたはSCENEとしてオートメーションシステムに保存することができます。ACTまたはSCENEの違いは全くありません；シーン、は、ACT内のサブセットして使用できます。

ACT/SCENE C/Oスイッチは、UP/DOWNスイッチと連携してACTまたはSCENEを選ぶために使用されます。「ACT」または「SCENE」は、この状態を示すために点灯されます。

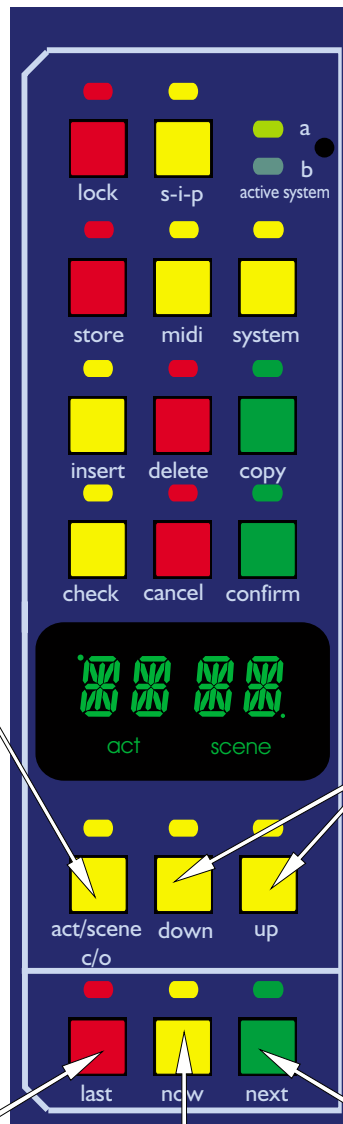
LAST、NOW、およびNEXTスイッチは、コンソールに保存されているスナップショットのシーンを呼び出します。

LASTは、現在リコールした又は、ストアされたスナップショットナンバーの前のナンバーのスナップショットシーンを呼び出します。

NOWは、数のディスプレイ表示されたナンバーのスナップショットを呼び出します。

UP/DOWNスイッチは、オペレータがACTやシーンナンバーをスクロールでき、メニュー項目では、ナビゲートすることを可能にします。

NEXTは、現在リコールした又は、ストアされたスナップショットナンバーの次のナンバーのスナップショットシーンを呼び出します。



SISスイッチ、ソロ信号をモノおよびステレオローカルモニターアウトプットに完全な左、センター、右のイメージにルートを変更します。これは、コンソールのソロがアクティブな時、他のソースから送られたどのような信号でも無効にします。

MONO SOLO TRIMはモニターアウトプットに送る前のソロレベルを調整します。コントロール範囲は、センタークリックで0dBとなり、+6dBからオフまで調整することができます。

Mono SOLOは、コンソールのソロが有効な時に、ソロ信号をモノローカルモニターアウトプットにルートを変更します。これは、monoマスタから送られたどのような信号でも無効にします。

Mono SOLOは、コンソールのソロが有効な時に、ソロ信号をモノローカルモニターアウトプットにルートを変更します。これは、monoマスタから送られたどのような信号でも無効にします。

入力チャンネルとステレオリターンにおいて、MONスイッチによりモニターライン信号に切り換えることができます。通常はフロントオブハウス信号がモニターされます。アウトプットにおいて、MONはステレオからmonoに変更します。

LOCAL MONITORレベルコントロールは、+10dBからオフに3つのローカルモニターアウトプットレベルを継続的に調整することができます。

ローカルモニターMUTEスイッチはローカルモニターアウトプットをミュートします。

SOLO PFLスイッチは、AFL信号の代わりにmono PFLソロバス信号をヘッドホンおよびローカルモニターアウトプットに送ります。これは、PFLsoloバス信号をモニターするために、ソロのメータも切り替わります。

SOLO ADD MODEスイッチはソロを複数のチャンネルで有効にすることができます。Solo AddモードがOFFの時、ソロスイッチを押し続けている動作から離れた状態になった時、そのソロは解除されず。ステレオL/R信号などの複数のソロは、ほぼ同時にソロのスイッチが押すことで、このモードにおいてモニターすることができます。ソロアドモードがONの時は、オートキャンセルは無効となり、複数チャンネルまたはアウトプットソロを可能にします。

STEREO SOLO TRIMはモニターアウトプットに送る前のソロレベルを調整します。コントロール範囲は、センタークリックで0dBとなり、+6dBからオフまで調整することができます。

stereo SOLOは、コンソールのソロが有効な時に、ソロ信号をステレオローカルモニターアウトプットにルートを変更します。これは、monoマスタ、stereoマスタ、テープインから送られたどのような信号でも無効にします。

MONOマスタスイッチは、モノフェーダのマスタミックスの後の信号をステレオローカルモニターアウトプットに切り換えます。

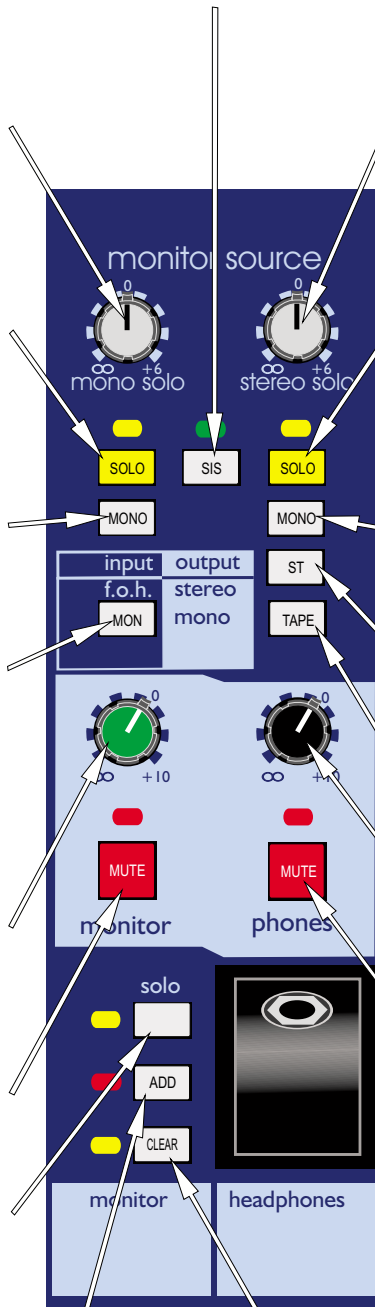
STマスタスイッチは、ステレオフィーダのマスタミックスの後の信号をステレオローカルモニターアウトプットに切り換えます。

TAPEスイッチは、ステレオローカルモニターアウトプット信号をステレオテープインプットに切り換えます。

PHONESレベルは、ヘッドホンレベルを+10dBからオフまで連続的に調整することができます。

Phones MUTEスイッチはヘッドホンアウトプットをミュートします。

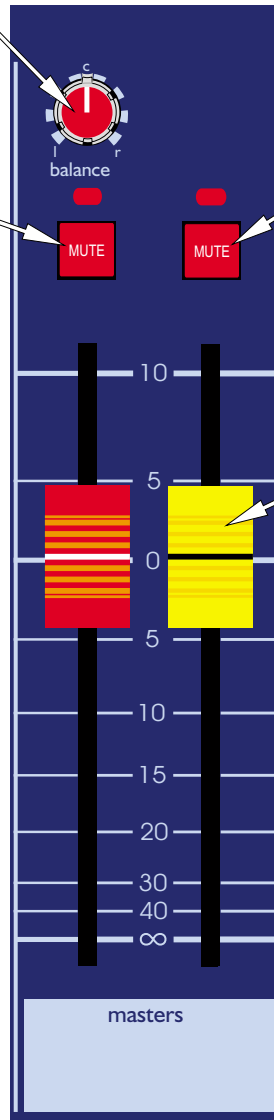
CLEARスイッチは、コンソールのどのような有効なソロでもクリアするために使用することができます。



Master Section

BALANCEコントロールはL/Rのマスター信号レベルをコントロールします。(インサートポイントに前で)。

ステレオマスターMUTEスイッチはフェーダの後のアウトプット信号をミュートします。このミュートはコンソールのスナップショットシステムでコントロールすることは出来ません。



モノマスターMUTEスイッチはフェーダの後のアウトプット信号をミュートします。このミュートはコンソールのスナップショットシステムでコントロールすることは出来ません。

2つのマスターフェーダは+10dBからオフまでメインミックスアウトプットレベルをコントロールします。



Automation System Control

Legend Automation System Overview

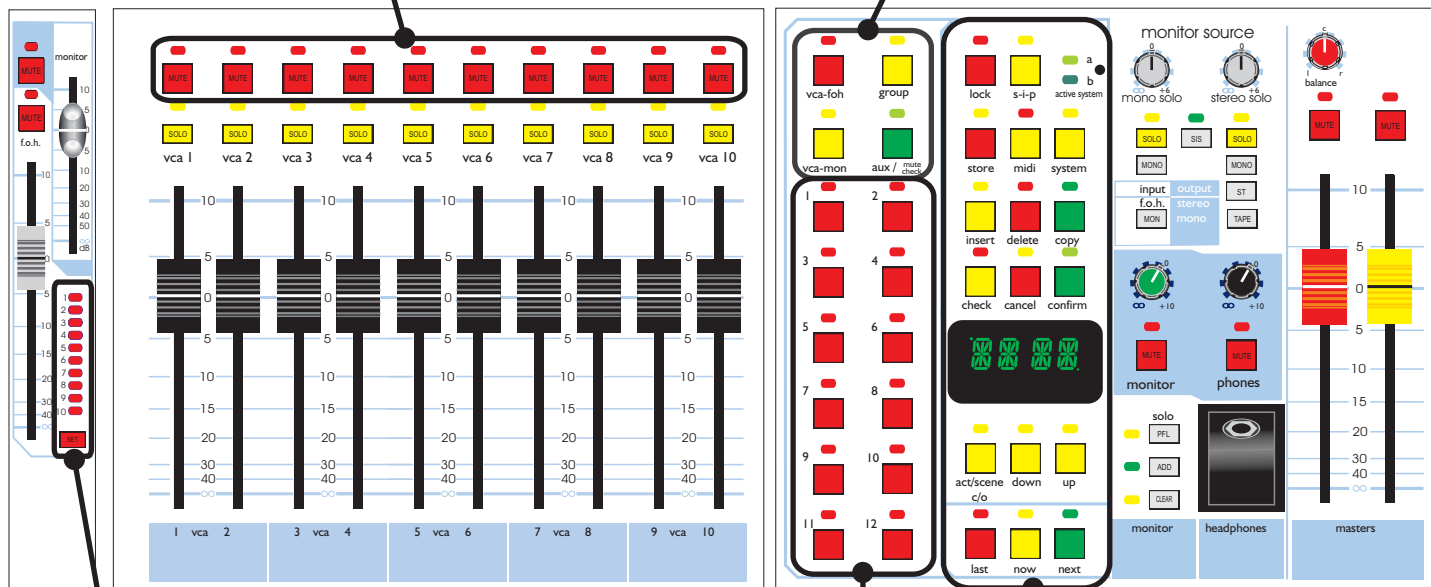
Legendのオートメーションシステムは、以下の機能設定をシーンによって記憶をすることが出来ます：

- FOHのマスターVCAのアサイン
- モニターのマスターVCAのアサイン
- 入力のオートミュートアサイン
- I/Pチャンネルのミュートアサイン
- AUXリターンのミュートのアサイン
- FOHの出力のミュートアサイン
- グループの出力のミュートアサイン
- マトリックスの出力のミュートアサイン
- マスターVCAミュートのアサイン
- 4つのMIDI出力メッセージ（1つのシーン）
- MIDIメッセージによるシーンの呼出

システムレイアウト

ミュートスイッチはオートミュートマスターまたはマスタVCAミュートとして選ぶ事が出来ます
これらはSYSTEMメニューにおいて選ぶ事ができ、デフォルト状態では、マスタVCAミュートにセットされています。

SETスイッチが押される時には、このセクションは、入力モジュール及びAUXリターンにアサインする機能をコントロールします。



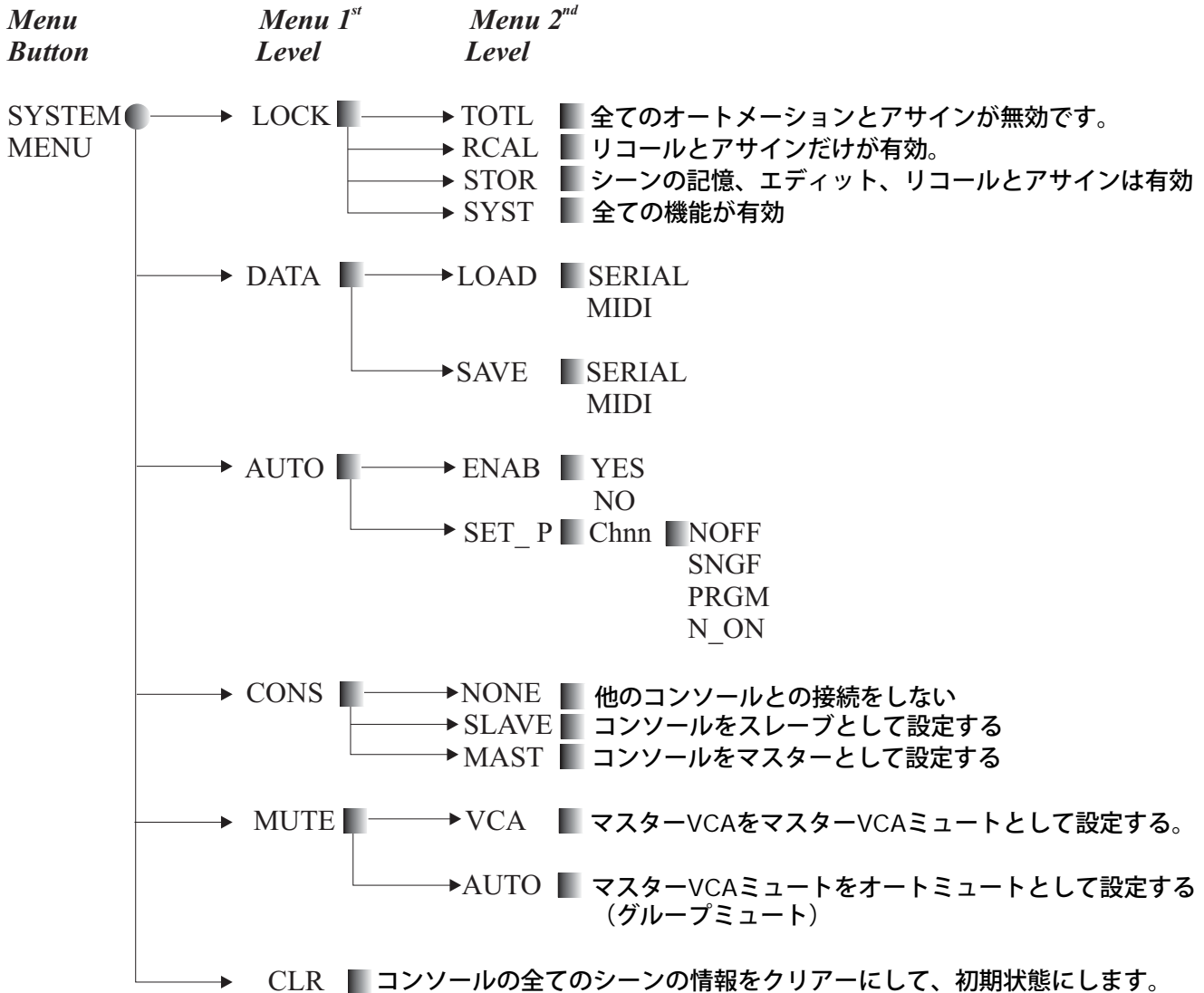
LEDはこのチャンネルにどのようにオートミュート又は、VCAが組まれているかを表示します。すでに、マスター部分のスイッチで選択されたアサインによってモジュールのアサインをSETスイッチで行う事が出来ます、またはSETを押し続けることで、チャンネルアサインの上書き設定も行う事が出来ます。

このセクションは、オートメーションメニューを示すコントロールを含んでいます。

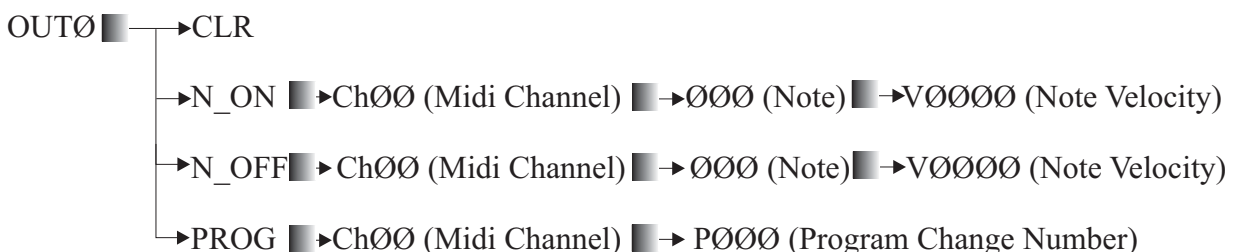
このマスターセクションのスイッチ部分を使って、オートミュート、マスターVCAや入出力のアサインを行ないます。

Legend Menu Overview Ver 1.61

- _Key** ■ この表示はCONFIRMボタン押したことを示します。
 ● この表示はSYSTEMボタンを押したことを示します。
 ◆ この表示は、MIDIボタンを押したことを示します。



MIDI出力のサブメニュー
 (○は、数字を示します。)



コンソールのロック状態を選び方

ロックをするには、

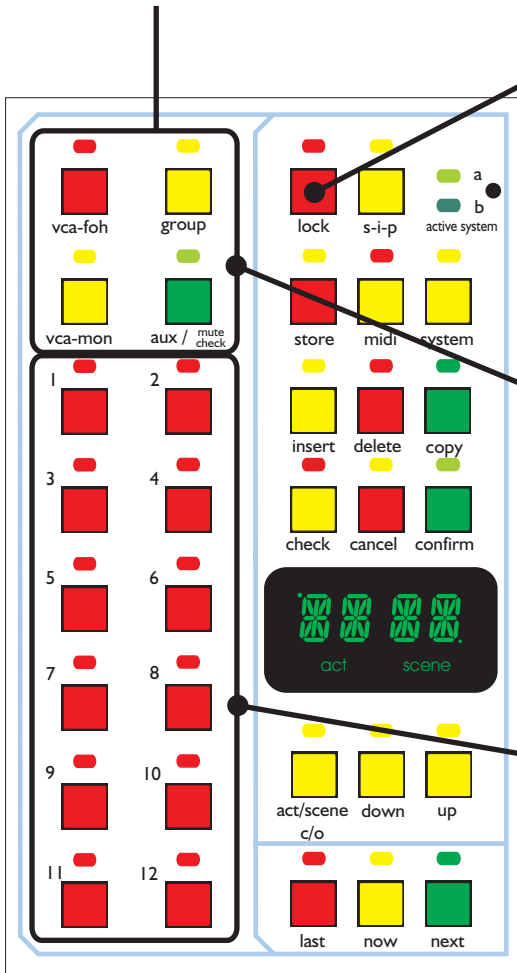
1、LOCKスイッチは押すたびにON/OFFを切り換えることができます。LOCKスイッチが点灯している時には、すべてのアサインの変更は行う事が出来ません。もし90秒期間以内にアサインコントロール操作を行わなければ、コンソールは、自動的にロック状態になります。アサインを始めることでこのコンソールは無効になります。

System Locks

- 2、SYSTEMボタンを押してください。ディスプレイにLOCKと表示されます。
- 3、CONFIRMボタンを押してください。ディスプレイのLOCKのサブメニューが表示されます。
- 4、UP/DOWNボタンを使って、LOCKサブメニューを切り換え必要とするロックモードが表示されるまでスクロールさせてください。
- 5、CONFIRMボタンを押してください。コンソールは、選ばれたロックモードにセットされます。

アサイン機能

1、ASSIGN KEYSは、個々のチャンネルのSETスイッチと連動して入力VCA FOH、VCA MON、オーディオグループ、またはAUXアサインの設定及び変更するために使用します。



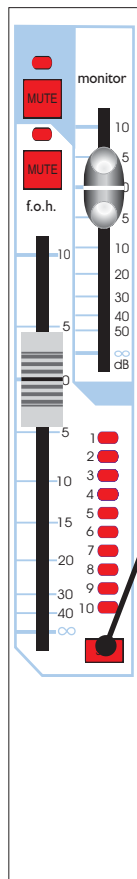
2、アサイン機能を実行するために最初にロックボタンを押してロックを解除してLEDをOFFにしてください。

3、VCAFOH、VCAMON、GROUP、およびAUXボタンをインプットモジュールのためにアサインモードにセットしてください。デフォルトとして、これらのスイッチは連動していて1つのモードしか選択することが出来ません、たとえそれらを0.5秒以上押ししてもそのモードがキャンセルされるだけです。これは「クリアなモード」のために使われます（以下で参照してください）。

もしVCA（SYSTEMメニューの）を独立したオペレーションのために、VCA FOHとVCA MON MUTEで選んでいるならば、それらは、3秒の間FOH / MON VCAスイッチを押すことによって選ぶ事ができます。

4、必要なセットアップをアサインするために、スイッチを押してください。長押しは、以前の設定をクリアして設定し、短押しは複数のアサインを行なえる様に前の設定に追加アサインをします。

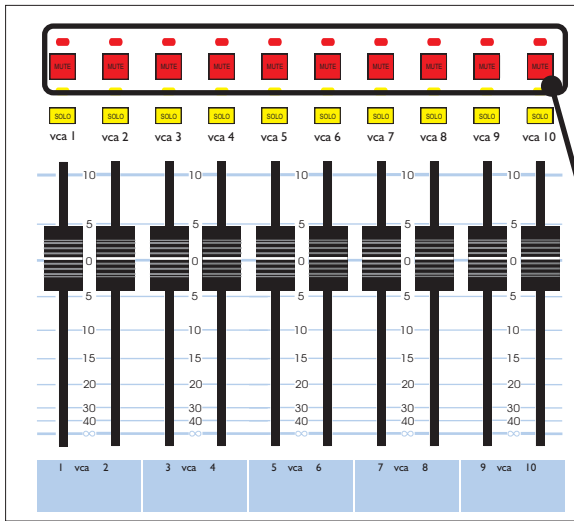
このモードには、全てのアサインをしない事でインプットSETスイッチの操作を長押しする事ですべての入力のアサインをクリアすることが出来ます。モードスイッチをクリアしたいパートを選択してください、例えば、VCAモードVCAをクリアします、グループモードはグループをクリアするように選び、アサインをしていない状態（1～12のLEDがOFF状態）にして、クリアしたい入力のSETスイッチを長押ししてください。



5、SETスイッチをアサインが必要な入力チャンネルで押してください。SETスイッチは2種類の方法で動作します。長押しはすべての前の設定を新しいアサインと入れ換えます、短押し前の設定を残して新しいアサインを追加します。

6、CLEARモードに入るために、すべてのアサインをOFFにしてください。すでに光っているアサインボタンを一度押すだけで、すべてクリアされます。そして、アサインの必要のない入力チャンネルのSETキーを押してください。

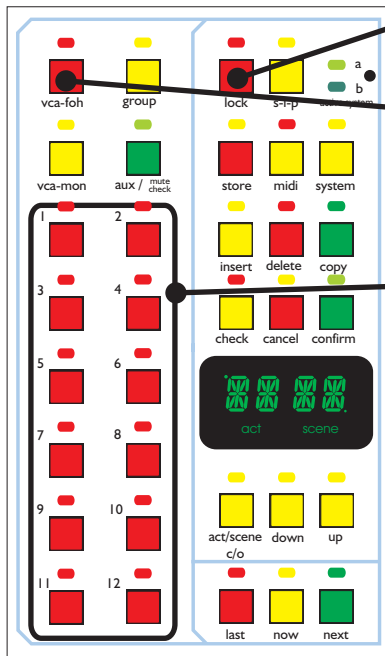
FOH信号のオートミュートアサインの方法



1、FOHまたはモニタ信号のためのオートミュートを使うために、最初に、SYSTEMメニューのMUTE項目でAUTOを選ばなければなりません：

SYSTEMボタンを押して、UP/DOWNボタンを使ってスクロールをしてMUTEを表示させます。CONFIRMを押して、UP/DOWNボタンを使ってAUTOを選びCONFIRMを押してください。

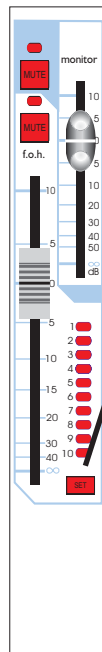
マスタVCAの上のミュートボタンは現在オートミュートマスタとして設定されました。



2、アサインモードに入るために、最初にLOCKボタンを押して（アサインシステムのロックを解除するため）LEDをオフにしてください。

3、オートミュートをFOH信号にアサインするため、最初、LEDがフラッシュ点灯するまでVCA FOHボタンを押し続けてください。FOHオートミュートの現在のアサイン状態を示すのは、その入力チャンネルの10個のLEDにより示されます。

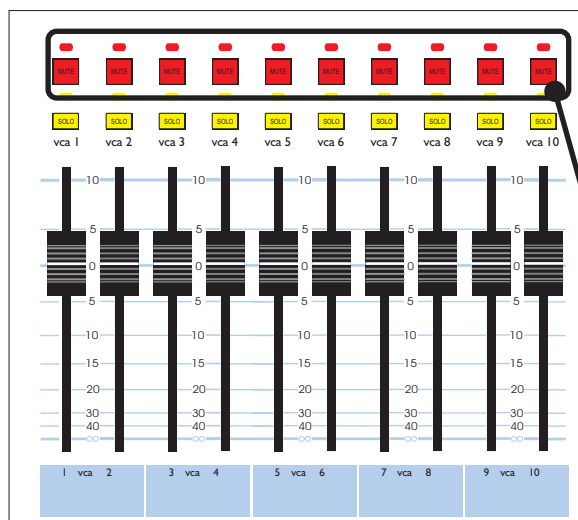
4、アサインが必要とされるスイッチを有効にしてください。長押しする事で複数のアサイン可能にし、短押しは前のアサインをクリアします。



5、SETスイッチをアサインが必要な入力チャンネルで押ししてください。SETスイッチは2種類の方法で動作します。長押しをする事で前の設定を新しいアサインと入れ換え、短押しは現在のアサインに新しいアサインを追加します。また新しいアサインのON/OFFも可能です。

6、クリアモードにするためには、全てのアサインボタンをOFFにしてください。すでに光っているアサインボタンを一度押すだけで、すべてクリアされます。そして、アサインの必要のない入力チャンネルのSETキーを押してください。

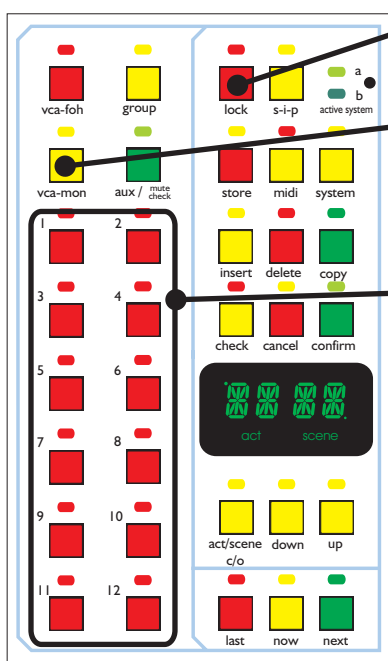
モニター信号のオートミュートアサインの方法



1、FOHまたはモニター信号のためのオートミュートを使うために、最初に、SYSTEMメニューのMUTE項目でAUTOを選ばなければなりません：

SYSTEMボタンを押して、UP/DOWNボタンを使ってスクロールをしてMUTEを表示させます。CONFIRMを押して、UP/DOWNボタンを使ってAUTOを選びCONFIRMを押してください。

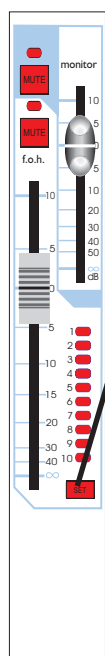
マスタVCAの上のミュートボタンは現在オートミュートマスタとして設定されました。



2、アサインモードに入るために、最初にLOCKボタンを押して（アサインシステムのロックを解除するため）LEDをオフにしてください。

3、オートミュートをモニター信号にアサインするため、最初、LEDがフラッシュ点灯するまでVCA MONボタンを押し続けてください。オートミュートの現在のMONIアサイン状態を示すのは、その入力チャンネルの10個のLEDにより示されます。

4、アサインが必要とされるスイッチを有効にしてください。長押しする事で複数のアサイン可能にし、短押しは前のアサインをクリアします。

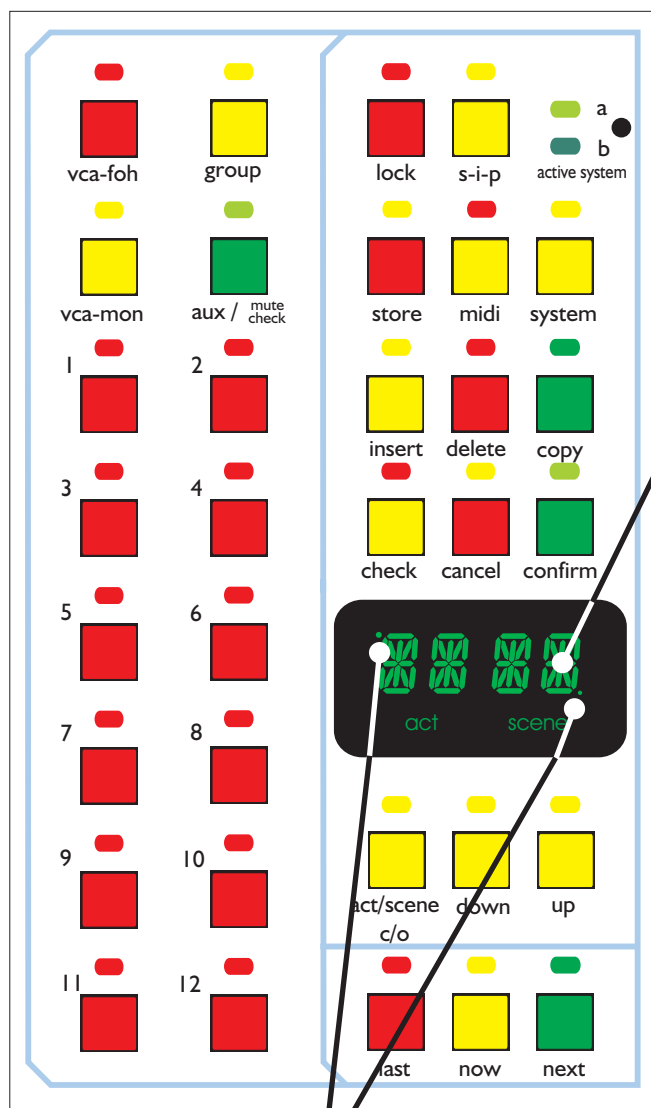


5、SETスイッチをアサインが必要な入力チャンネルで押してください。SETスイッチは2種類の方法で動作します。長押しをする事で前の設定を新しいアサインと入れ換え、短押しは現在のアサインに新しいアサインを追加します。また新しいアサインのON/OFFも可能です。

6、クリアモードにするためには、全てのアサインボタンをOFFにしてください。すでに光っているアサインボタンを一度押すだけで、すべてクリアされます。そして、アサインの必要のない入力チャンネルのSETキーを押してください。

シーンの記憶方法

様々なコンソール上の設定を行なったなら、現在の状態をシーンとしてオートメーションシステムに保存することができます。それを行なうために以下のステップを行なって下さい：



1、コンソールのLOCK状態をSYSTまたはSTORの状態であることを確認してください。

2、保存したいACT/SCENEナンバーをUP/DOWNボタンを使って選んでください。

Note: シーンが表示は、UP/DOWNボタンで0000から9999までをスクロールすることが出来ます。

3~4桁目の数字により速くアクセスすることを望むならば、ディスプレイの下に表示されているActとScene表示を切り換えることで最初の2桁または最後の2桁のスクロールを切り換えられます。これは、ACT/SCENEボタンを押すことによって行なえます。

3、保存したいナンバーが表示されたなら、STOREボタンを押してください。もしこれが新しいシーンであるならば、それは保存され、ディスプレイはDONEと表示された後、直ぐにシーンナンバーの表示に戻ります。

もしすでにこのシーンが存在し ディスプレイにOVR/STRとフラッシュするならば、上書きしてさしつかえなければCONFIRMボタンを押すことでシーンは保存されます。

OVR/STRがフラッシュしている時にUP/DOWNボタンを押すことによって、シーンが反応するMIDIの情報を変更する項目に入ることが出来ます（コンソールのMIDIインが使用可能な時）。詳細情報はMIDIの設定項目を参照してください。

ディスプレイの右上と左下の2つのドット表示の意味は以下の通りです：

右上：現在のコンソールの設定がこのシーンナンバーの内容設定を動作していることを示します。

左下：このシーンナンバーに設定が保存されていることを示します。もしドットの両方とも点いているなら、コンソールは現在そのナンバーで動作していることを示します。

シーンの記憶

メモリーナンバーを決めて、記憶を試みる

- ①ディスプレイのナンバーの変更をする方法として ACT/SCENE C/O ボタンを押すことによりナンバーの桁を選ぶことが出来、ディスプレイ内の ACT/SCENE のランプが点灯する桁を UP/DOWE ボタンで変更することが出来ます。それぞれのモードで 00-99 の間を移動できますが、0000 の表示の時に DOWN ボタンをもう一度押すことにより、9999 に移動することも出来ます。
 - ②記憶したいナンバーへ移動をした後、STORE ボタンを押しディスプレイに DONE と表示され、そのナンバーに記憶が行われた事を示します。
また、STORE ボタンを押したとき、OVR STOR とディスプレイに表示されたときは、選んだナンバーに別のシーンが記憶されています、上書きをして良い場合は、CONFIRM ボタンを押して記憶をして頂くか、CANCEL ボタンを押して、別のナンバーを選び、STORE ボタンで再び記憶を行ってください。
- 注) シーンナンバー0000 はシーンの記憶/上書きは出来ません。

MIDI (プログラムチェンジ)

- ①MIDI ボタンを押すことにより MIDI 設定に入ることが出来ます。
- ②UP/DOWN ボタンで MIDI OUT1-4 設定に入ることが出来ます (Legend は、最大4系統の MIDI OUT メッセージを同時に送ることが出来ます)、CONFIRM ボタンで設定できます。
- ③UP/DOWN ボタンで、ディスプレイが PROG 表示になるまで移動をして、CONFIRM ボタンで設定できます。
- ④UP/DOWN ボタンで、MIDI チャンネル、プログラムナンバーを決めます。再び MIDI ボタンを押すことにより MIDI メニューから、出ることが出来ます。
- ⑤MIDI メッセージをシーンに記憶させるため、STORE ボタンを押し、CONFIRM ボタンを押してください。

シーンのインサート

記憶したいシーンを、記憶したいナンバーに ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイ表示させ INSERT ボタンを押すことにより、選ばれたナンバーに記憶され、従来記憶されていたシーンは、1つ繰り上がったナンバーにすべて移動します。

シーンのコピー

- ①コピーをしたいメモリーナンバーは、ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイに呼び出し、NOW ボタンを押して呼び出すか、LAST/NEXT ボタンで呼び出して下さい。
- ②COPY ボタンを押し、コピー先のメモリーナンバーは、ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイに呼び出し COPY ボタンを再び押し、良ければ STORE、メモリーナンバーのどの変更をしたければ CANCEL ボタンを押してください。

プレビューシーン

- ①現在呼び出されているシーンの設定状態をそのまま保ちながら、他のシーン設定状態との比較が出来ます。
- ②CHECK ボタンを押し、ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイに他のシーンナンバーを呼び出すだけで、そのシーンナンバーの設定の状態にコンソールの LED などが点灯/点滅をします。
プレビューモードから出るには、再び CHECK ボタンを押してください。

シーンの呼び出し

記憶されているシーンの呼び出し方法は、2通り有ります。

- ①LAST/NEXT ボタンを使ってシーンナンバーの順番に呼び出す方法
- ②ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイに呼び出したいメモリーナンバーを表示して NOW ボタンを押して、呼び出す方法。

コンソールの全てのメモリーを消去：

コンソールの全てのメモリーを消去するには以下の通りです。

- ① SYSTEMメニューをスクロールして CLRを選んで、CONFIRMを押してください。
- ② 画面はSUREと表示されます。良ければCONFIRMを押してください。
- ③ WAITと表示され、その後DONEに変わります。
コンソール内のメモリーは、全て消去されましたが、現在動作しているコンソールの状態は、NOWボタンが押されるまで、その状態を保ちつづけられます。呼び出す事が出来るのは、ディフォルト状態の0000だけです。

シーンの消去

- ①消去したいシーンを呼出すか、ACT/SCENE UP/DOWN を使ってディスプレイに呼び出し DELETE ボタンを押します。CONFIRM ボタンを押してください。行わないならば CANCEL ボタンを押してください。

MIDI の割り当て :

MIDI チェンジに反応するためのコンソールも設定 :

コンソール設定は、「SYSTEM」ボタンを押した後に、「AUTO」サブメニューを経てアクセスできます。このサブメニューオプションは「SYS」ロックモードの時に設定が可能です。

「AUTO」に選択後、2つのサブメニューがあります :

- ①ENAB- (可能にする)、これは、この機能のマスタースイッチであり、「はい」または「いいえ」に設定できます。このスイッチはトグルしていますがこの機能のために他のセットアップパラメータは削除されません。
- ②SETP - (セットアップ)、これは、私達が、この機能のために使われる実際の MIDI パラメータを設定する所です。これらのパラメータは、コンソールがそれに反応し、必要な作動/場面数を解釈するという MIDI のコマンドを定義します。設定できる 2 つのパラメータは次の通りです :

MIDI コマンド、これは、以下の MIDI コマンドのうちのどれかであることを確認してください :

- N ON - (Note ON)
- NOFF - (Note OFF)
- SNGP - (SONG Pointer)

MIDI チャンネル、これは、可能な全部で 16 チャンネル選択可能で、ディスプレイで CH 01-CH 16 をカバーします。

注 :

1.act/scene ナンバーを変更するために外部の MIDI の要求に反応するために、以下の条件が必要です。 :

- ①「オート-ENAB」メニュー設定は、「YES」に設定されなければなりません。
- ②コンソールは「TOTL」(トータル)ロックモードに有ってはなりません。
- ③コンソールは、どのようなメニューオペレーションでも実行されてはいけません。

MIDI機器をセットアップします :

コンソールにそのACT/SCENEを自動的に変更させるように、MIDIコマンドは事前にプログラムコマンド&チャンネル(コンソールに設定される)を使って設定することができます。実際のACT/SCENEナンバーは、送られるMIDIコマンドデータに符号化されます。

必要なMIDIのコマンドデータは、MIDIのコマンドパラメータを次の通り設定することによって設定できます :

Note ON/OFF : これらのMIDIのコマンドは2つのパラメータを次の通り持っています :

- ①Note、このパラメータは必要な「ACT」数と等しく、個々のNote数は当量を持っています(以下のシートを見てください)
- ②ベロシティー、このパラメータは、必要な「SCENE」数と等しいです。

例 : ACT 20、SCENE 44の変化プログラムを作るために、-NoteをG#-1にVelocityを44にセットしてください。

Song-Pointer、このコマンドナンバーは値であり、「ACT」&「SCENE」を結合させた数と等しい。

例 : ACT 45、SCENE 02の変化プログラムを作るために、-値を4502に設定してください

MIDIの「NOTE」数の値のルックアップ・テーブルです。

NOTE	OCTAVE										
	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
c	0	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120
c#	1	13	25	37	49	61	73	85	97	109	121
d	2	14	26	38	50	62	74	86	98	110	122
d#	3	15	27	39	51	63	75	87	99	111	123
e	4	16	28	40	52	64	76	88	00	112	124
f	5	17	29	41	53	65	77	89	01	113	125
f#	6	18	30	42	54	66	78	90	02	114	126
g	7	19	31	43	55	67	79	91	02	115	127
g#	8	20	32	44	56	68	80	92	03	116	-
a	9	21	33	45	57	69	81	93	04	117	-
a#	10	22	34	46	58	70	82	94	05	118	-
b	11	23	35	47	59	71	83	95	06	119	-

Midi Sysex ダンプ:

リコールメモリーデータを、システムメニューからUP/DOWNキーを使ってDATAを選びCONFORMを押すことにより、コンソールとMIDI機器又は、MIDAS (MDF3MIDIファイル) から入手可能なウインドウズソフトウェア間で保存することができます。UP/DOWNキーを使い、SAVEまたはLOADをCONFIRMを押すことで選ぶことができます。これらの通信ポートはMIDI (MIDIポートはコンソールのリアに) またはRS232の2つ有ります。(ソフトウェアは、Web Site:www.midasconsoles.comで入手可能です) UP/DOWNボタンを使ってMIDIまたはSERIALを選び、CONFIRMを押してください。画面は、その時、実行されている機能を示し、終了した時に、ユーザーに通知します。

Legendからメモリーをファイルに保存します。

- ①ヌルモデムケーブルを接続してください。
- ②ショーメニューを選び、『Download From Console』をクリックしてください。ウィンドウは開き、Commポートをセットアップします。
メッセージはWaiting for Show dataと表示されます。
- ③Legendの『SYSTEM』メニューを選び、『DATA』にスクロールしてください。『CONFIRM』を押し、そして、『SAVE』にスクロールし、『CONFIRM』を押してください。そしてRS232にスクロールをして『CONFIRM』押してください。Legendからのショーメモリーはコンピュータにロードされます。データ転送が完全な時には、コンソールは、STORE OKを確認するために『CONFIRM』を押します。
- ④Hsutilのショーメニューを選び、ファイルするために保存をクリックしてください。
- ⑤プロンプトは1つのショーネームに対して1つ付けてください。ファイルの種類は*.shwと付けてください。
- ⑥OKをクリックしてください。ファイルは保存されます。

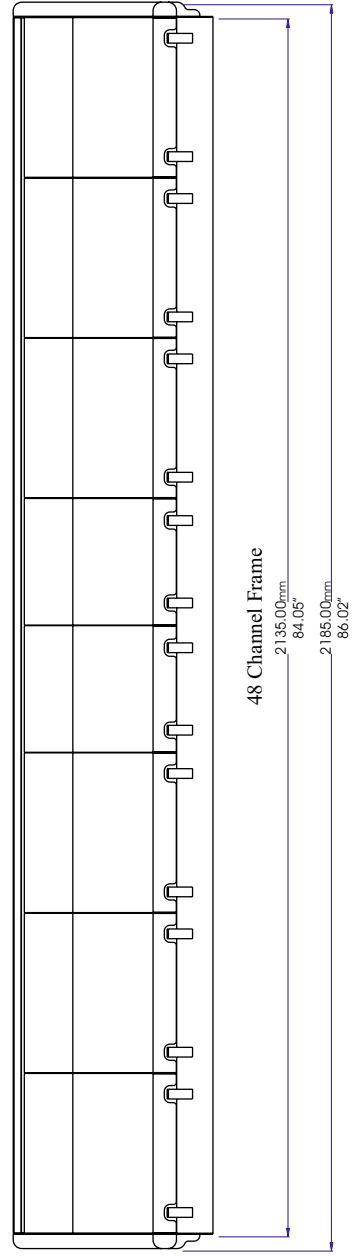
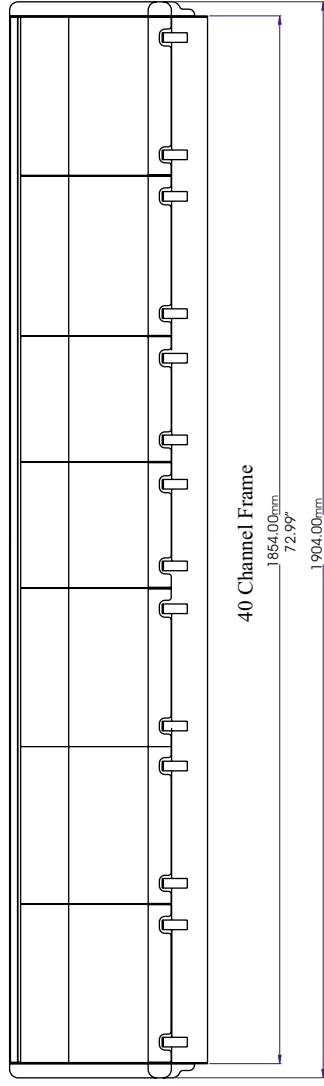
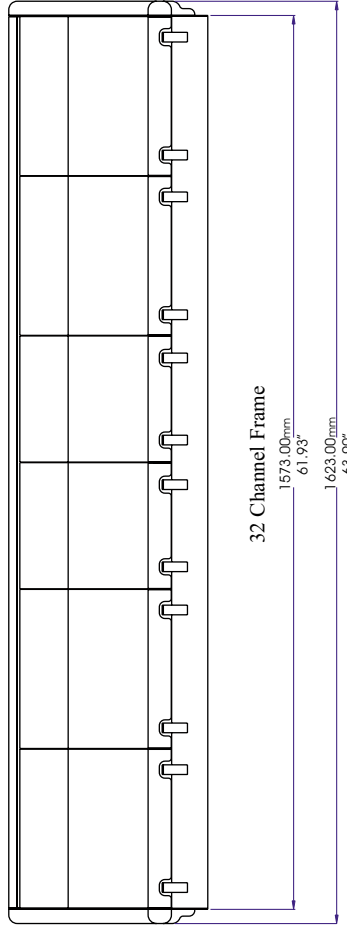
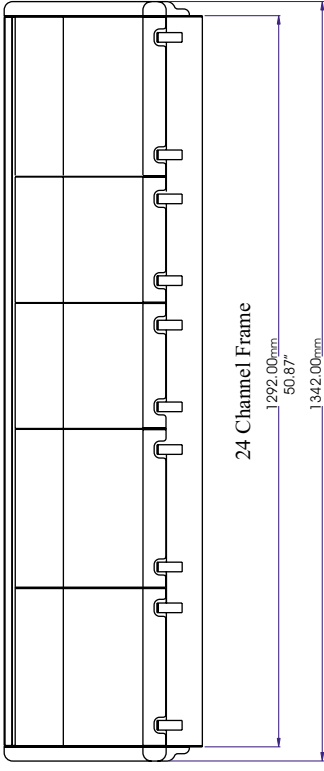
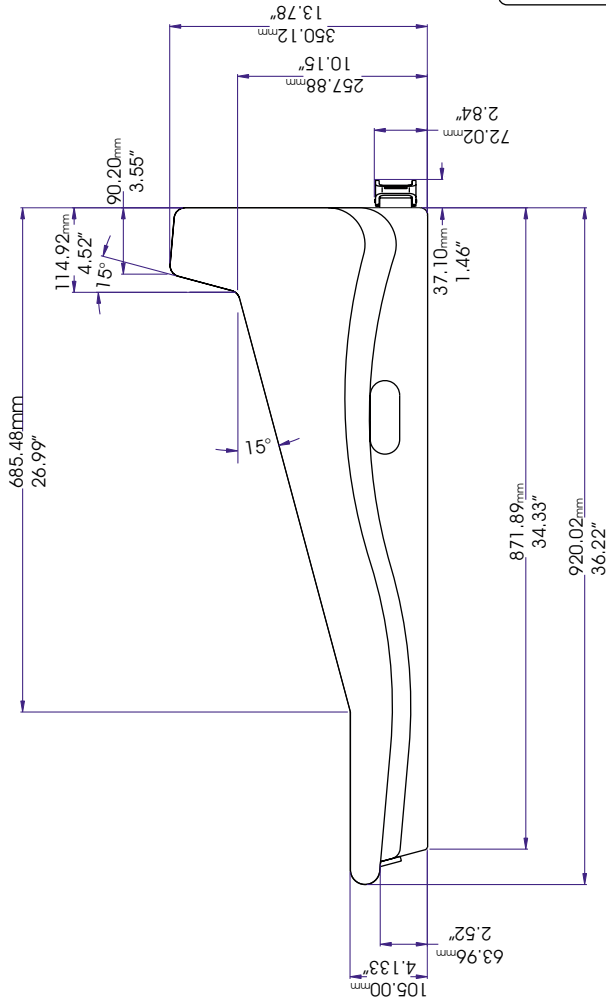
Legendにショーデータをダウンロードします。

- ①ヌルモデムケーブルを接続してください。
- ②ショーメニューを選び、『Load From File』をクリックしてください。
ブラウザ機能選択を使い あなたが、コンソールにダウンロードしたいショーファイルを選びOKをクリックします。ウィンドウが開き、あなたにloading is completeと聞いてきます、OKをクリックして下さい。
- ③Hsutilのショーメニューを選び、Upload to consoleをクリックしてください。
コンソールが用意できている時には、ウィンドウは、あなたにアップロードを行ってよいかを開きます。
LegendのSYSTEMメニューを選び、スクロールして『DATA』を選び『CONFIRM』を押してください。スクロールして『LOAD』を選び『CONFIRM』を押してください。RS232にスクロールし、『CONFIRM』を押してください。
- ④『Upload』ボタンをクリックしてください。
- ⑤ファイルがダウンロードされた時には Legendは、『CONFIRM』を押すように、あなたを尋ねてきます。
コンピュータからのショーメモリーは現在Legendにロードされました。



Frame sizes and Dimensions

Legend 3000 Frame sizes and Dimensions



Weight (out of flight case):

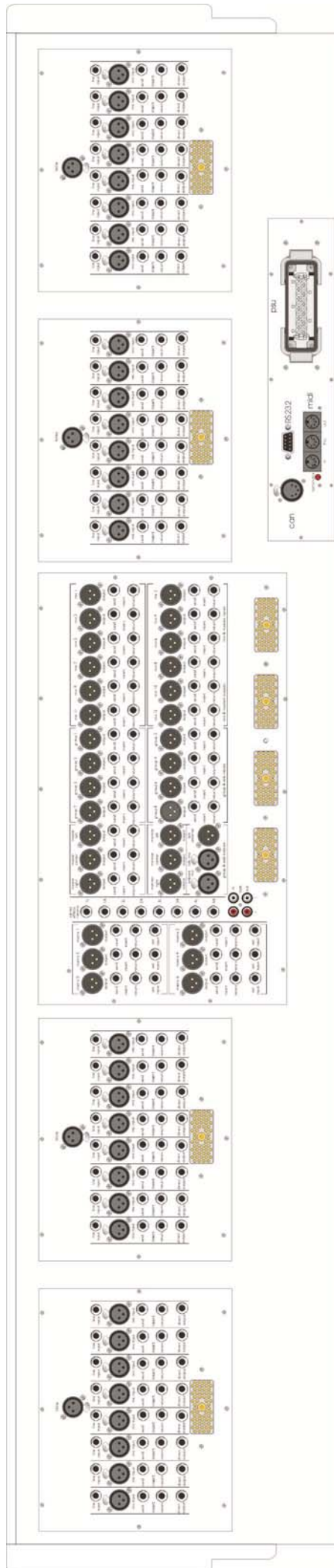
28 channel 24 mono / 4 stereo	71kg	156.5lbs
36 channel 32 mono / 4 stereo	85kg	187.4lbs
44 channel 40 mono / 4 stereo	100kg	220.5lbs
52 channel 48 mono / 4 stereo	114kg	251.3lbs

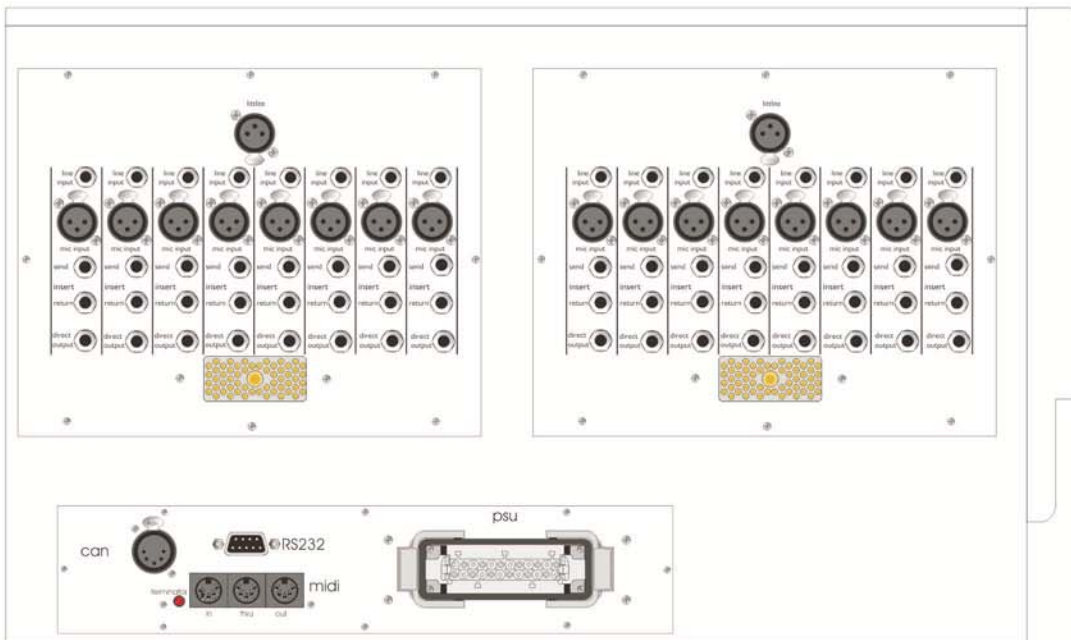
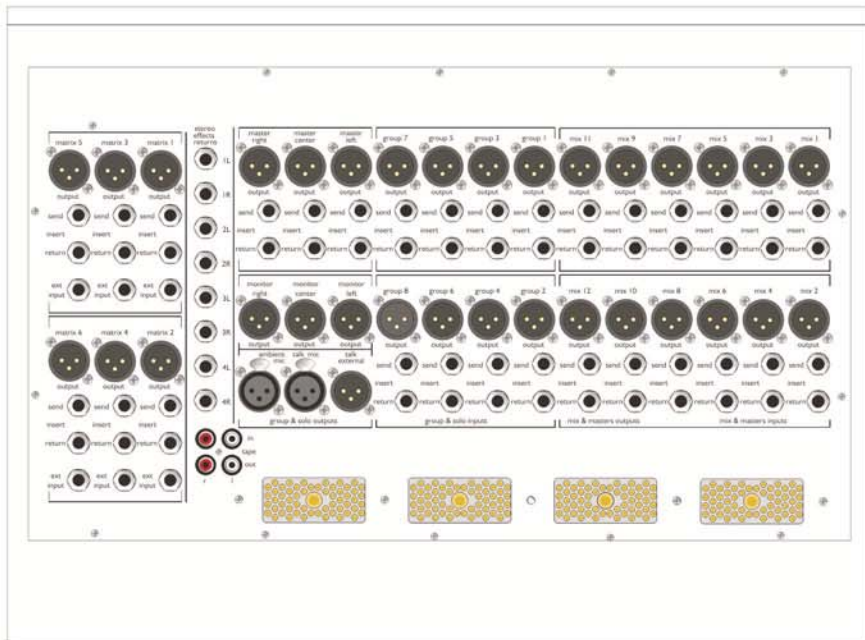
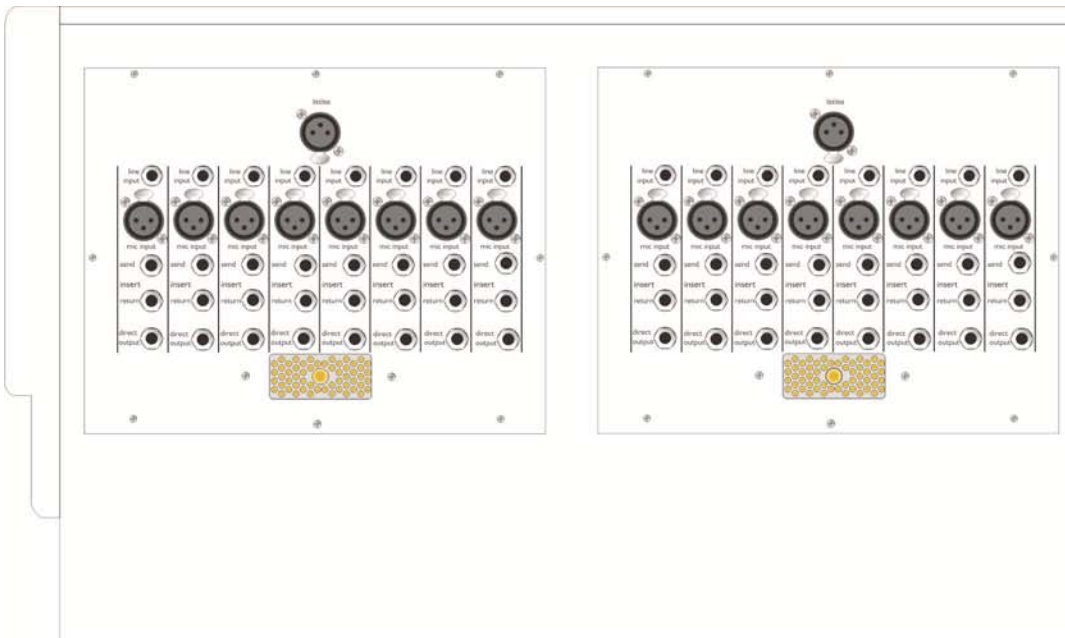
These weights are approximate



Rear Panel Configuration

Midas Legend 3000 Rear Panel (32 mono channel)

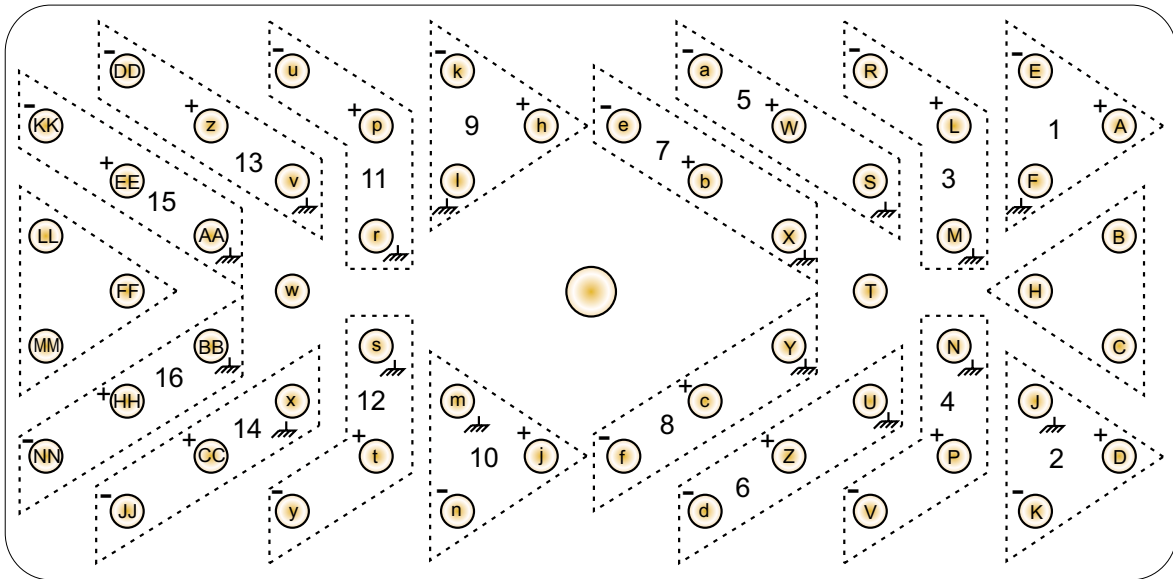






Edac Wiring Diagrams

56 Way Edac Connector Details



/// = Individual Screens

INPUTS

- 1 Mic In1
- 2 Mic In 2
- 3 Mic In 3
- 4 Mic In 4
- 5 Mic In 5
- 6 Mic In 6
- 7 Mic In 7
- 8 Mic In 8
- 9 Direct Out 1
- 10 Direct Out 2
- 11 Direct Out 3
- 12 Direct Out 4
- 13 Direct Out 5
- 14 Direct Out 6
- 15 Direct Out 7
- 16 Direct Out 8

This wiring pattern is the same for all input edacs.

MIX & MASTERS

*Mix Out & Mix Bus Injects
Master Out & Master Bus Injects*

- 1 Mix 1
- 2 Mix 9
- 3 Mix 2
- 4 Mix 10
- 5 Mix 3
- 6 Mix 11
- 7 Mix 4
- 8 Mix 12
- 9 Mix 5
- 10 Master L
- 11 Mix 6
- 12 Master C
- 13 Mix 7
- 14 Master R
- 15 Mix 8
- 16 Chassis

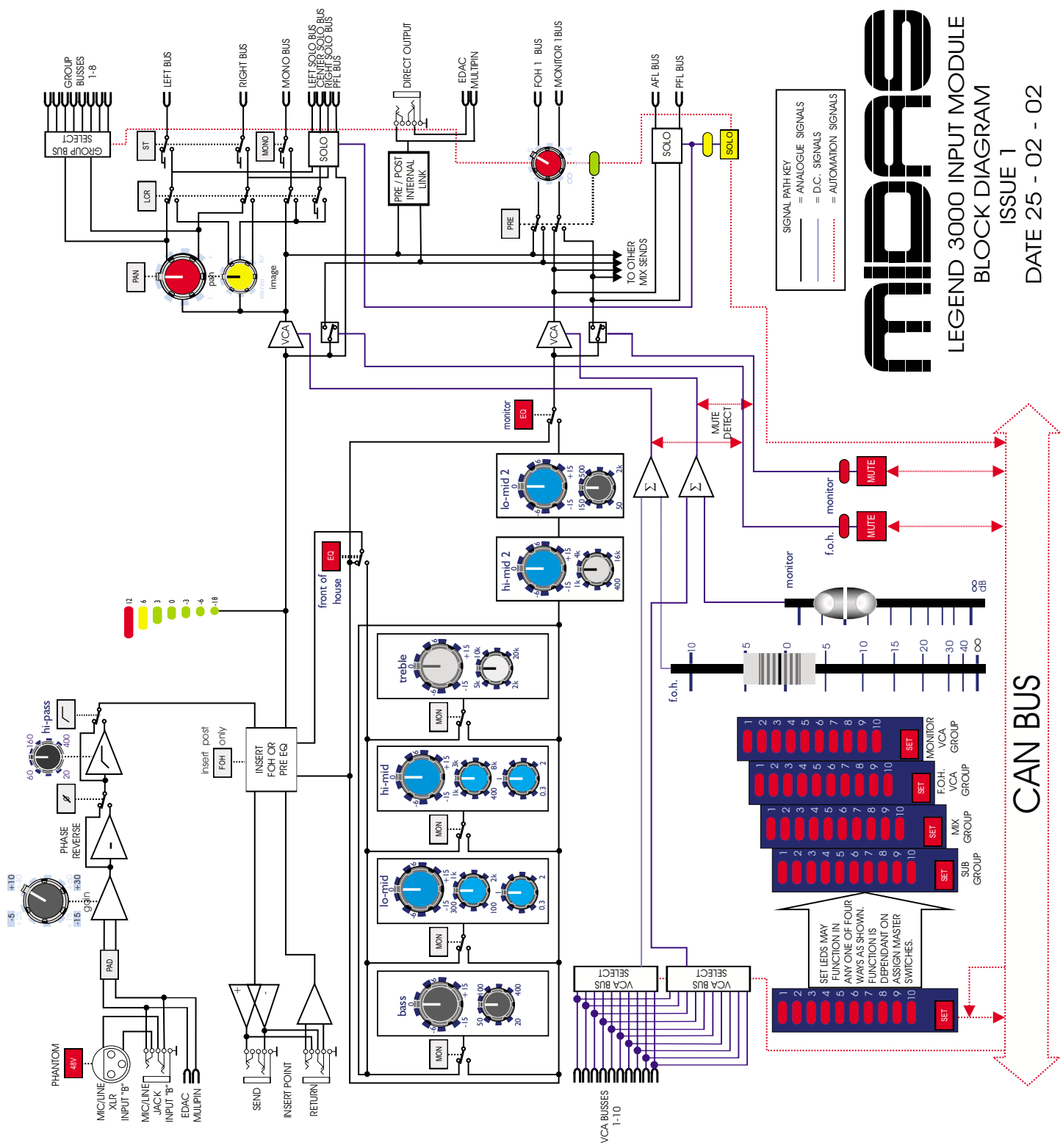
GROUP & SOLO

*Group Out & Group Bus Injects
Solo Out & Solo Bus Injects*

- 1 Group 1
- 2 FOH L
- 3 Group 2
- 4 FOH C
- 5 Group 3
- 6 FOH R
- 7 Group 4
- 8 MON AFL
- 9 Group 5
- 10 FOH PFL
- 11 Group 6
- 12 MON PFL
- 13 Group 7
- 14 Chassis
- 15 Group 8
- 16 Chassis



Block Diagrams

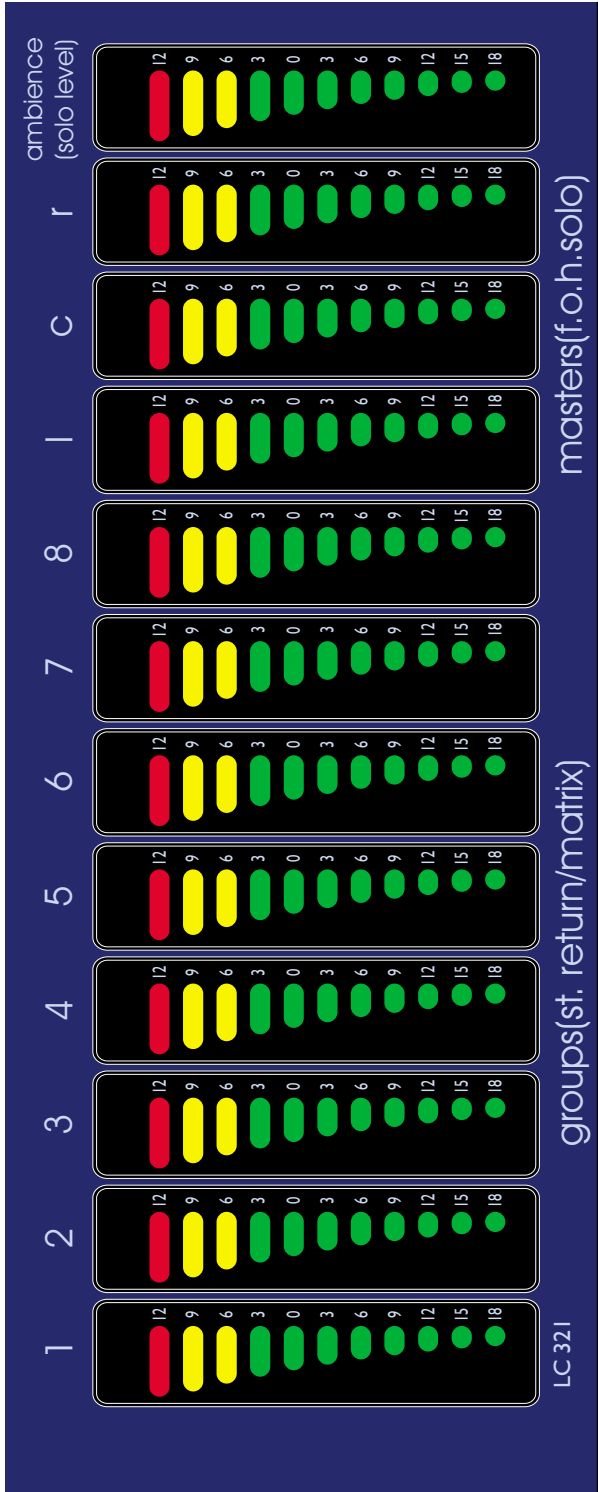


MIDFES

LEGEND 3000 INPUT MODULE
BLOCK DIAGRAM
ISSUE 1

DATE 25 - 02 - 02

CAN BUS



MIDAS

LEGEND 3000 METERS MODULE BLOCK DIAGRAM

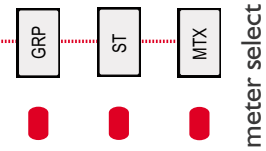
ISSUE 1

DATE 9 - 02 - 02

THESE METERS AUTOMATICALLY SWITCH BETWEEN
LEFT / CENTER / RIGHT / AMBIENCE
AND

FOH SOLO LEFT / CENTER / RIGHT / MONO MONITOR SOLO
IF A SOLO SWITCH IS PRESSED

IF THE PFL SWITCH IN THE MONITOR
SECTION IS SELECTED THE AUTOMATIC MONITOR FUNCTION BECOMES
NOTHING / FOH PFL / NOTHING / MONITOR PFL

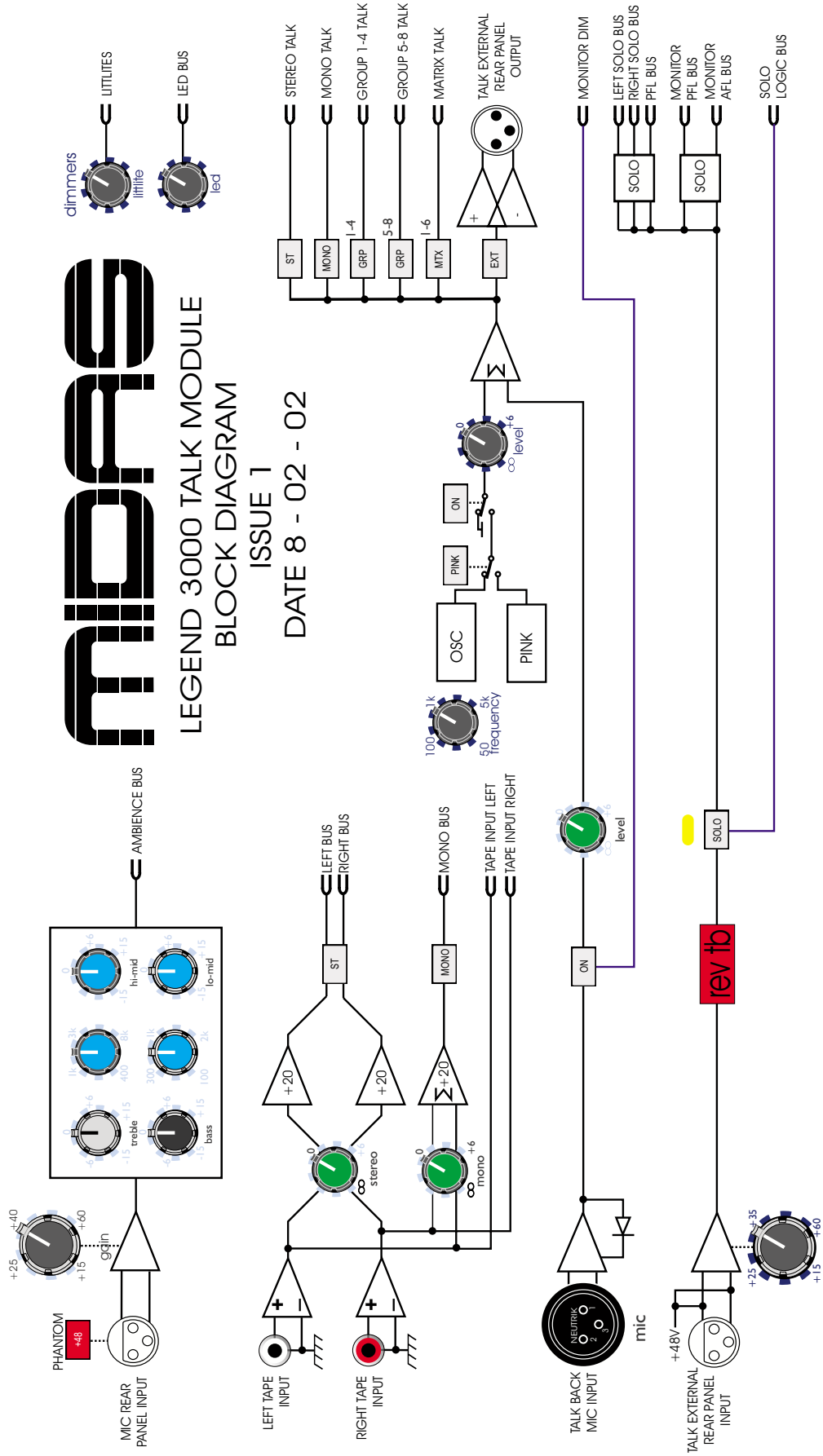


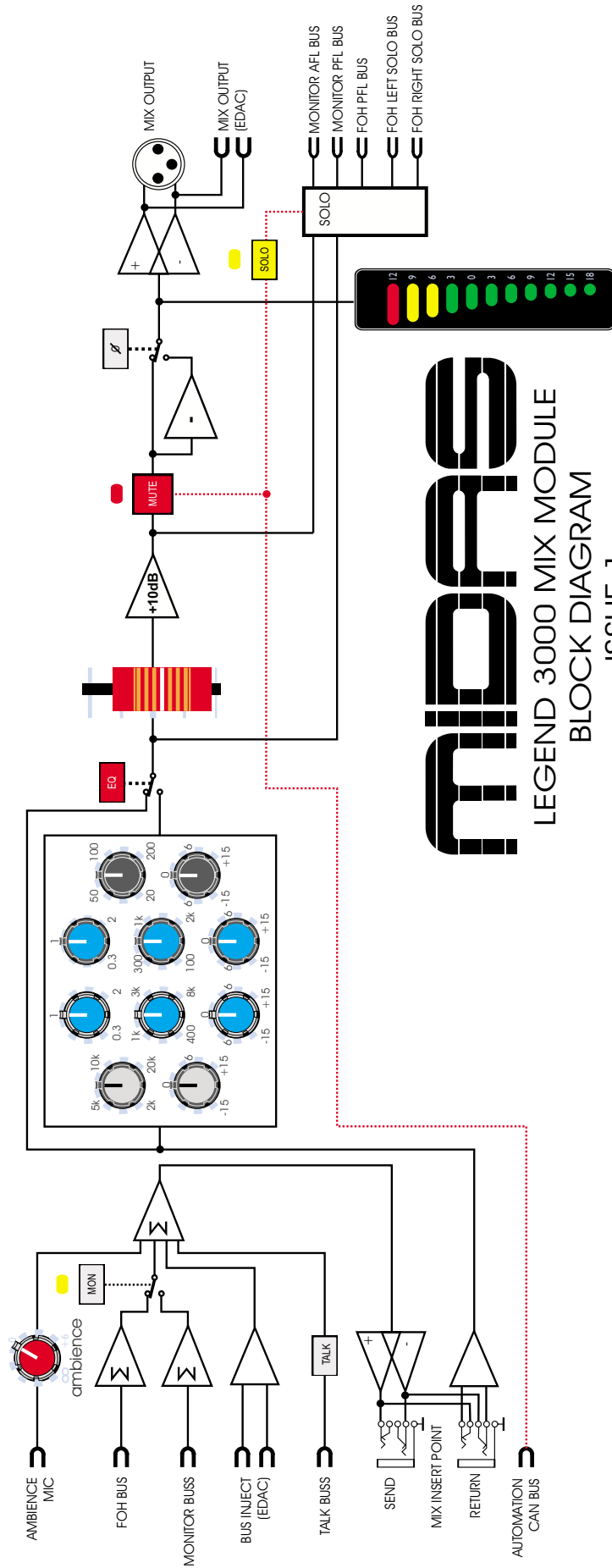
MIDPES

LEGEND 3000 TALK MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

DATE 8 - 02 - 02





midops

LEGEND 3000 MIX MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

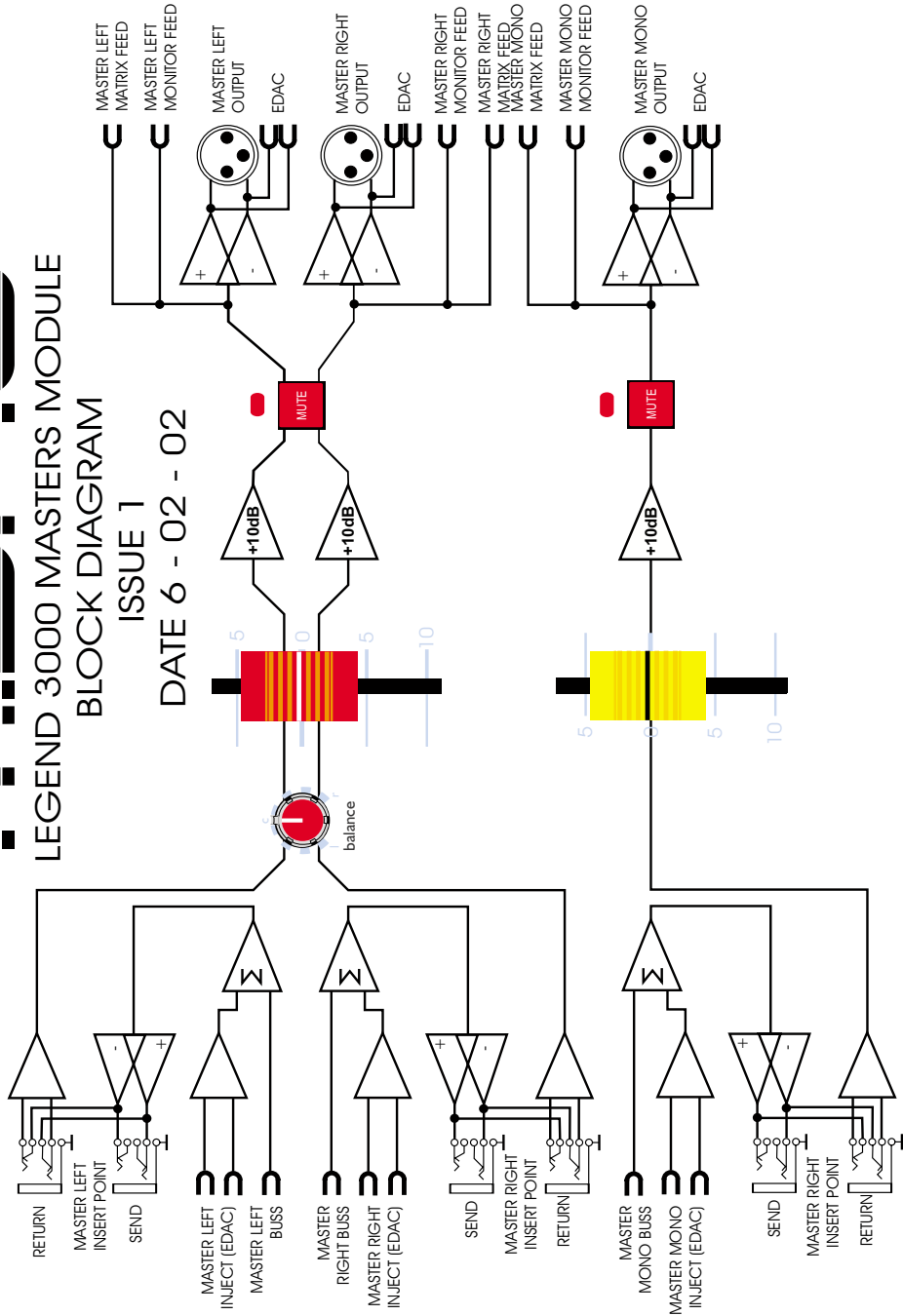
DATE 6 - 02 - 02

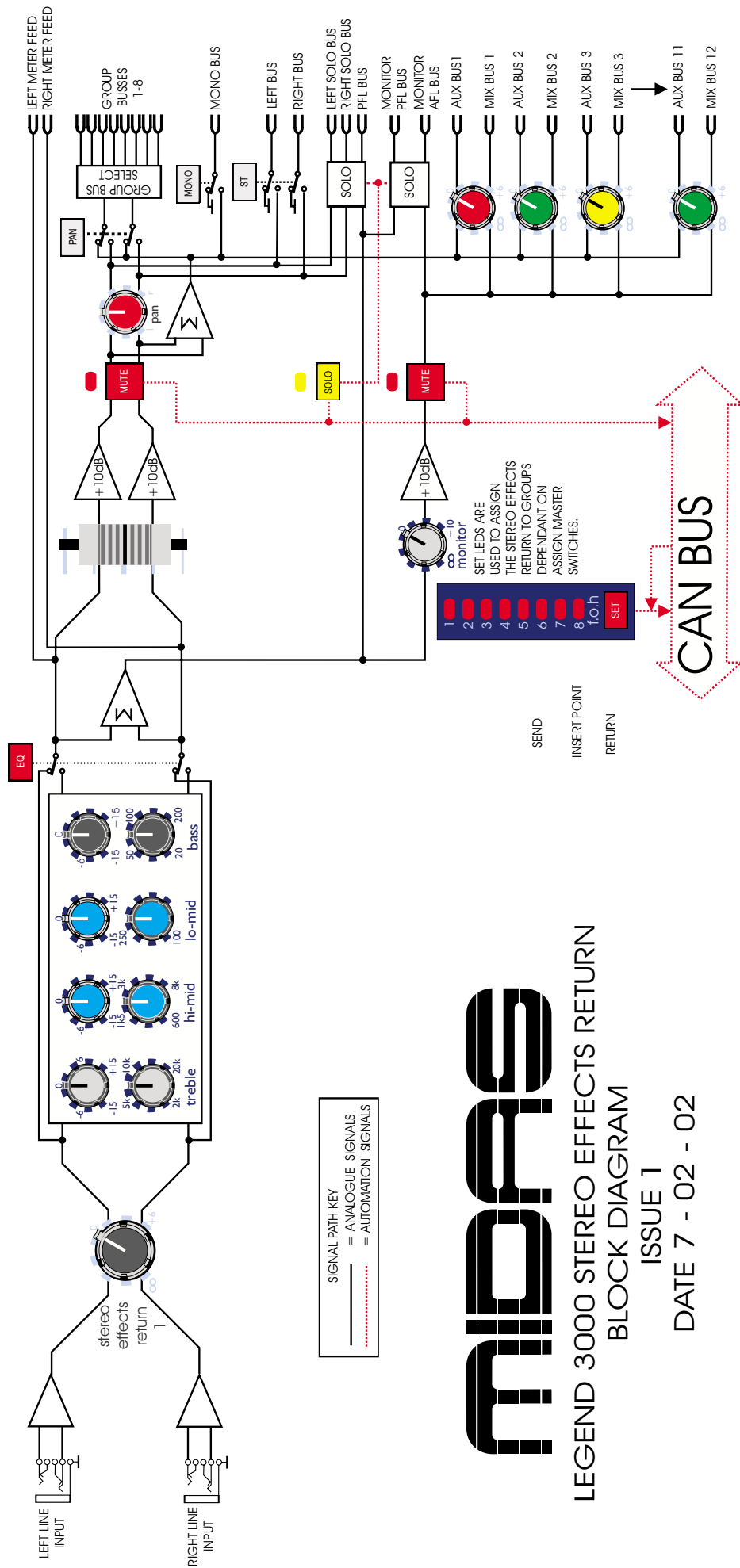
MIOPES

LEGEND 3000 MASTERS MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

DATE 6 - 02 - 02

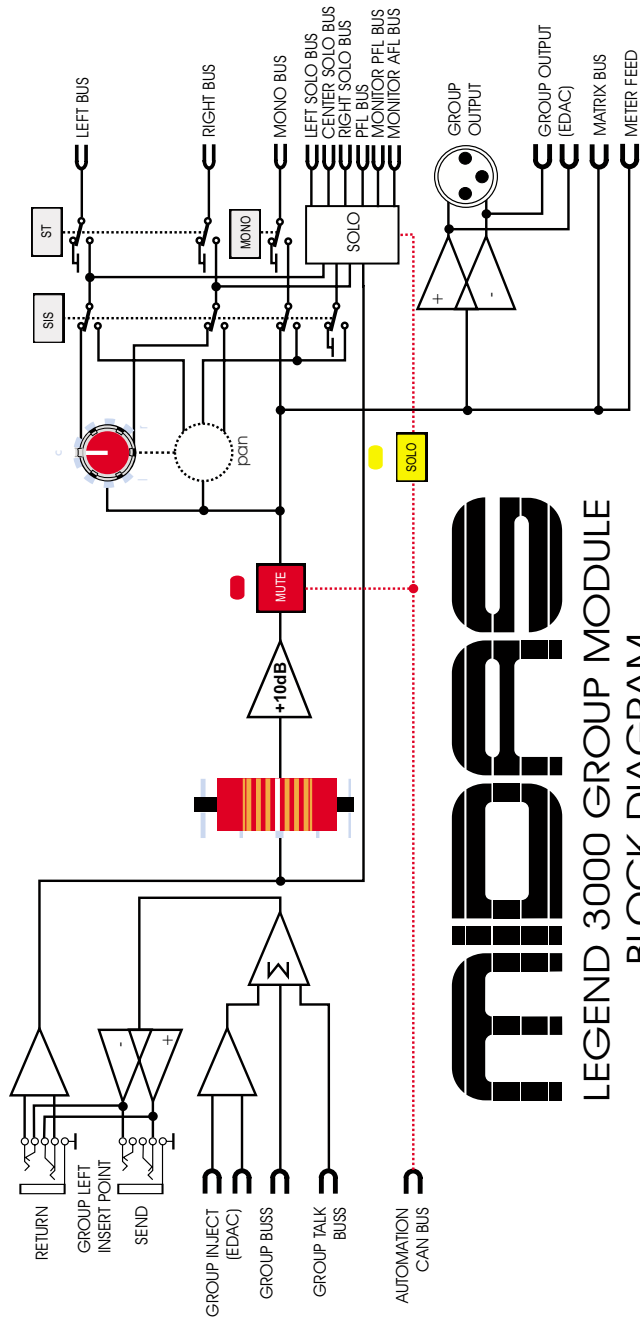




MIPMS

LEGEND 3000 STEREO EFFECTS RETURN BLOCK DIAGRAM ISSUE 1

DATE 7 - 02 - 02



midops

LEGEND 3000 GROUP MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

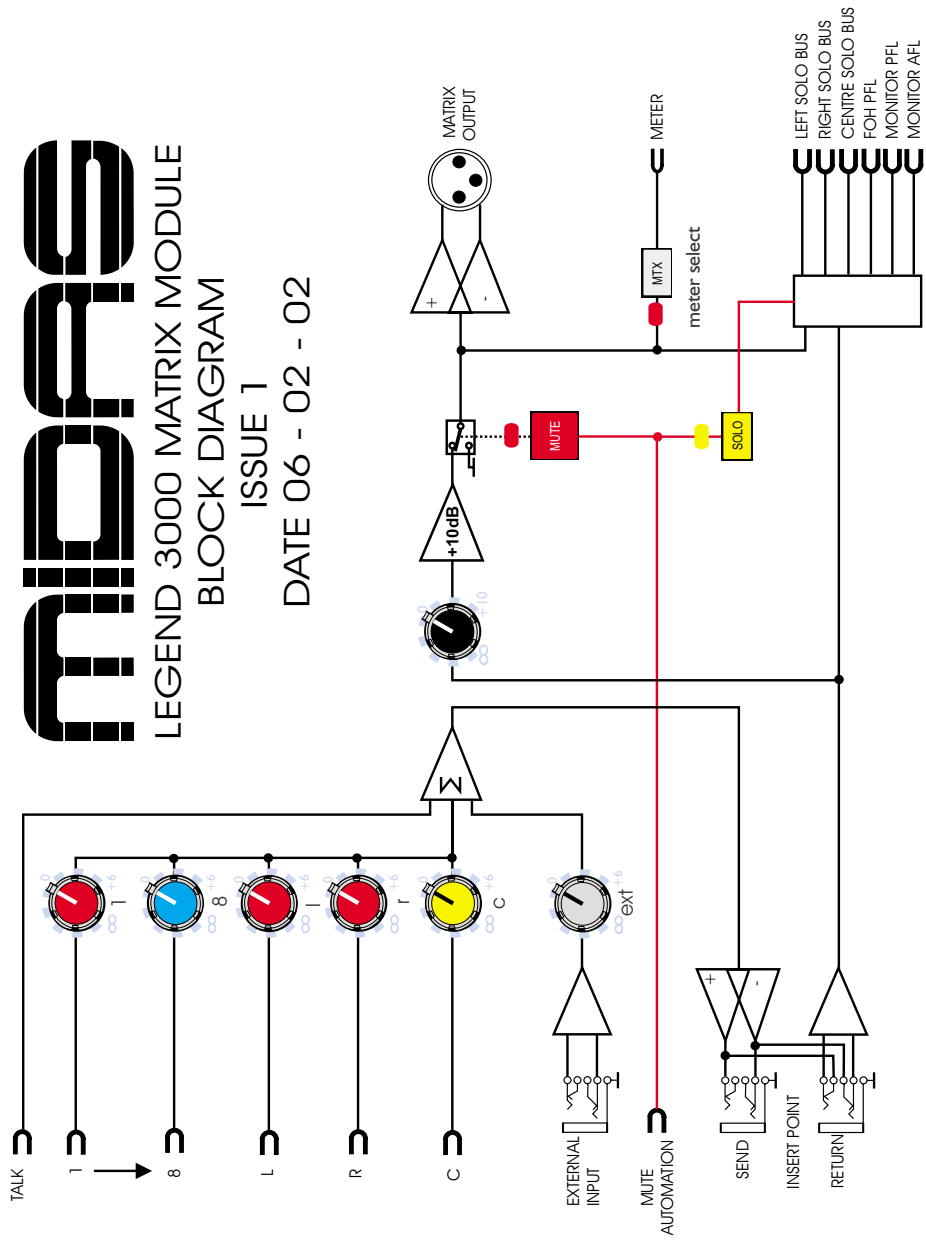
DATE 6 - 02 - 02

midpro

LEGEND 3000 MATRIX MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

DATE 06 - 02 - 02

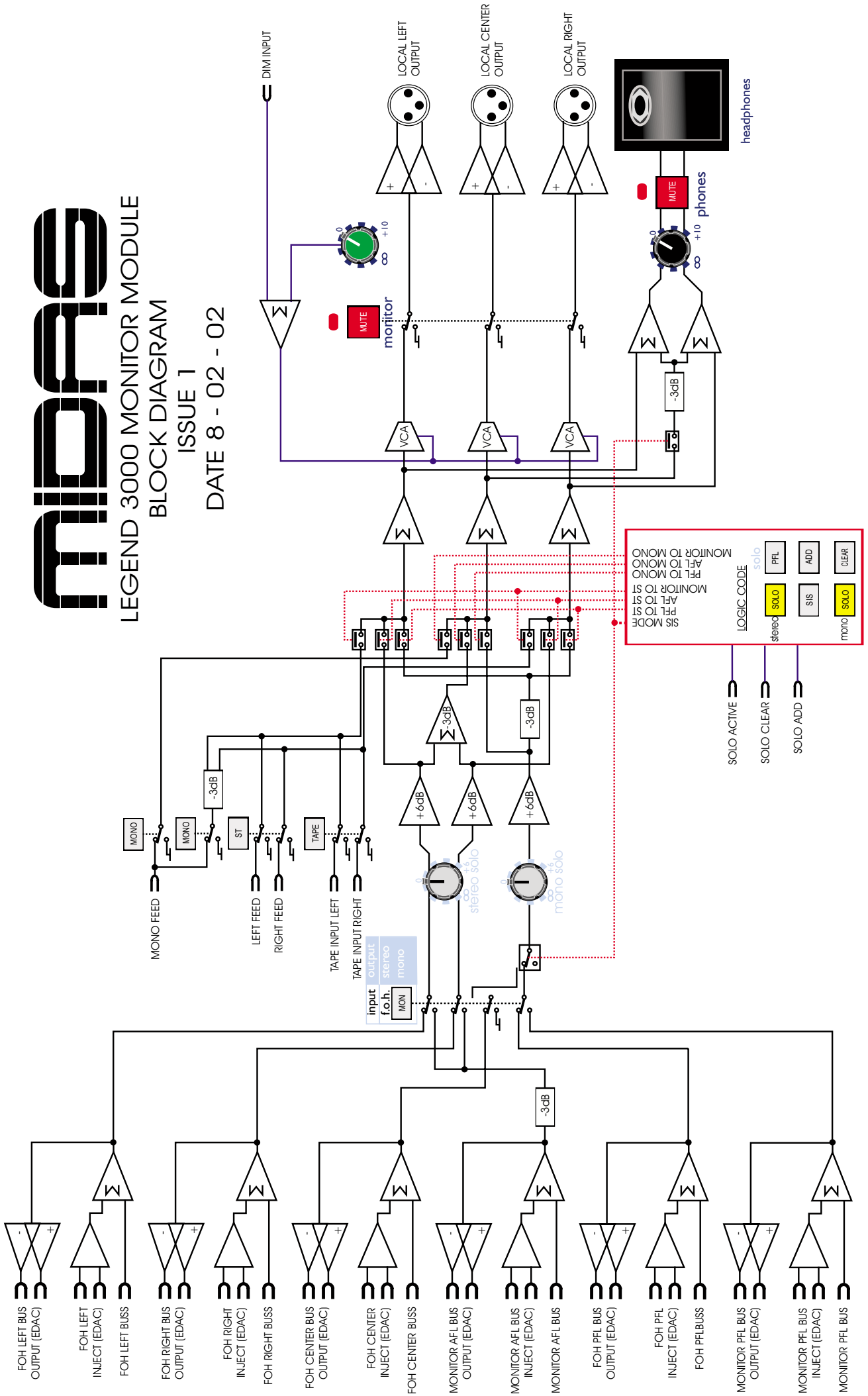


MIDPES

LEGEND 3000 MONITOR MODULE BLOCK DIAGRAM

ISSUE 1

DATE 8 - 02 - 02





Specification and Overview

LEGEND 3000 SPECIFICATION OVERVIEW AND STATISTICS.

1. The Legend 3000 is a 29 buss console with an additional 12 x 6 output matrix. The busses are as follows:-

8 audio groups	=	8
12 mono aux	=	12
1 stereo master	=	2
1 mono master	=	1
1 stereo AFL	=	2
1 mono PFL	=	1
1 mon AFL	=	1
2 monitor solos	=	2
 TOTAL	 =	 29

2. The Legend 3000 has 10 VCA sub groups which include VCA sub group muting.

3. The Legend 3000 XLR input count is as follows:-

XLR Input count	Frame Size (Mic Input)	Talk Mic Inputs	Ambient Mic Input
51	48	2	1
43	40	2	1
35	32	2	1
27	24	2	1

4. The Legend 3000 has a total XLR output count of 33 as follows:-

8 audio group outputs
12 aux outputs
6 matrix outputs
3 master outputs
3 local outputs
1 talk external output

6. The Legend 3000 has a total of balanced ¼ inch jacks for inserts as follows:-

Frame Size	Balanced ¼" Jack Inserts	Input channel insert sends	Input channel insert returns	Audio group insert sends	Audio group insert returns	Aux insert sends	Aux insert returns	Matrix insert sends
48	264	48	48	8	8	12	12	6
40	232	40	40	8	8	12	12	6
32	200	32	32	8	8	12	12	6
24	168	24	24	8	8	12	12	6

Frame Size	Balanced ¼" Jack Inserts	Matrix insert returns	Master insert sends	Master insert returns	Channel direct outputs	Channel line inputs	Stereo effects inputs	Matrix external inputs
48	264	6	3	3	48	48	8	6
40	232	6	3	3	40	40	8	6
32	200	6	3	3	32	32	8	6
24	168	6	3	3	24	24	8	6

7. The Legend 3000 has 60(48 frame) 52 (40 frame) 44 (32 frame) 36 (24 frame) long throw faders for mix control and 72 (48 frame) 64 (40 frame) 56 (32 frame) 48 (24 frame) short throw faders.

8. The Legend 3000 has a total of 72 (48 frame) 64 (40 frame) 56 (32 frame) 48 (24 frame) peak program meters with 11 LED segments on all outputs and 7 LED segments on input channels.

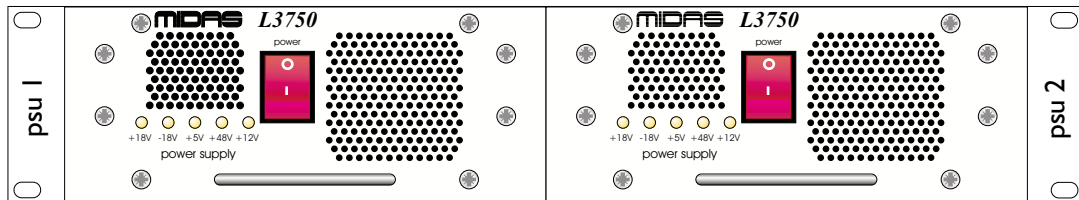
LEGEND 3000 TECHNICAL SPECIFICATIONS.

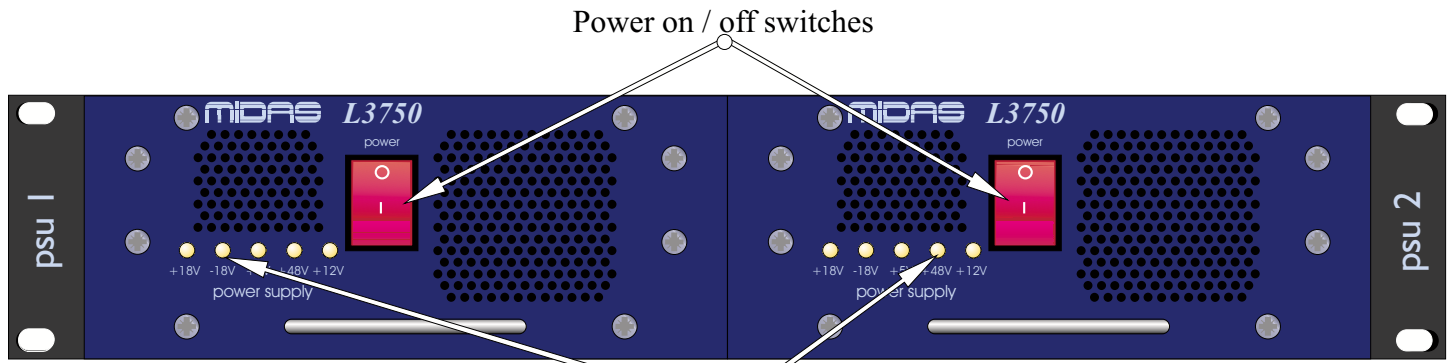
Input Impedance	Mic	2k Balanced
	Line	20k Balanced
Input Gain (all faders at 0dB)	Mic	Continuously variable from + 15dB to + 60dB
	Mic + Pad	Continuously variable from - 15dB to + 30dB
	Line Level Inputs	0dB
Maximum Input Level	Mic	+ 6dBu
	Mic + Pad	+ 31dBu
	Line Level Inputs	+ 21dBu
CMR at 1kHz	Mic (gain + 40dB)	> 80dB
	Mic + Pad (gain 0dB)	> 50dB
Frequency Response (20 to 20kHz)	Mic to Mix (gain + 40dB)	+ 0dB to - 1dB
Noise (20 to 20kHz)	Mic EIN ref. 150Ω (gain + 60dB)	- 128dBu
System Noise (20 to 20kHz)	Summing Noise (48 channels routed with faders down)	- 80dB
	Line to Mix Noise (48 channels routed at 0dB, pan centre)	- 75dB
Distortion at 1kHz	Mic to Mix (+ 40dB gain, 0dBu output)	< 0.05%
Crosstalk at 1kHz	Channel to Mix	< - 80dB
	Maximum Fader attenuation	> 70dB
Output Impedance	All Line Outputs	50 Ohms Balanced Source to drive > 600Ω
	Headphones	To drive > 8Ω
Maximum Output Level	All Line Outputs	+ 21dBu
	Headphones	+ 21dBu

Nominal Signal Level	Mic	- 60dBu to + 10dBu
	Line	0dBu
	Headphones	+ 10dBu
Equaliser <i>FOH & MON input</i>	Hi pass Slope	12dB / Oct
	Hi pass Frequency	Continuously variable - 3dB point from 20Hz to 400Hz
<i>FOH input & MON output</i>	Treble Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Treble Shelving Freq.	Continuously variable - 3dB point from 2KHz to 20KHz
	Hi Mid Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Hi Mid Freq.	Continuously variable Centre from 400Hz to 8KHz
	Hi Mid Bandwidth	Continuously variable 0.1 Oct. to 2 Oct Centre detent = 0.4 Oct
	Lo Mid Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Lo Mid Freq.	Continuously variable Centre from 100Hz to 2KHz
	Lo Mid Bandwidth	Continuously variable 0.1 Oct. to 2 Oct Centre detent = 0.4 Oct
	Bass Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Bass Shelving Freq.	Continuously variable - 3dB point from 20Hz to 400Hz
<i>MON input</i>	Hi Mid Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Hi Mid Freq.	Continuously variable Centre from 400Hz to 16KHz
	Lo Mid Gain	Continuously variable + 15 dB to - 15 dB Centre detent = 0dB
	Lo Mid Freq.	Continuously variable Centre from 50Hz to 2KHz

MIDAS L3750

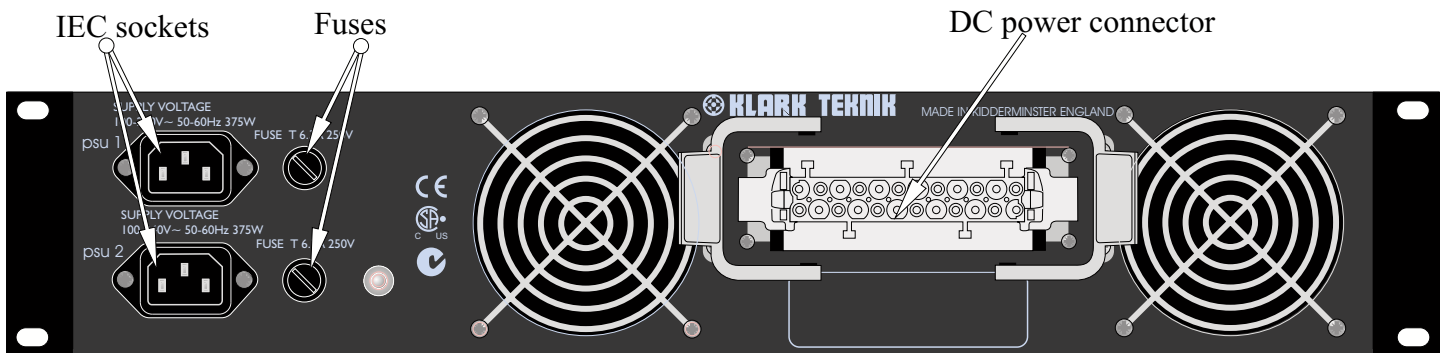
Power Supply





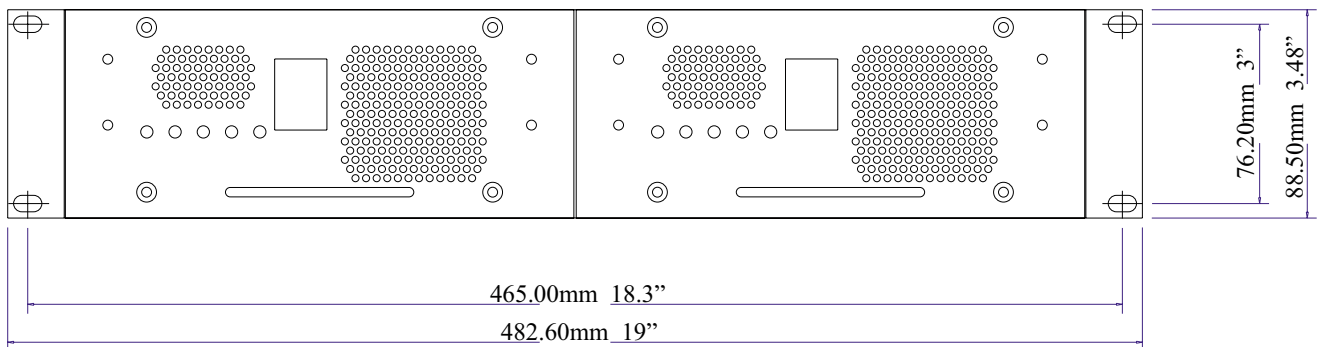
Front View

The POWER indicators show the status of all rails on the power supplies.



Rear View

Measurements and Specifications



Dimensions and Weights

Width:	482.6mm	19.00"
Height 2U:	88.50mm	3.48"
Depth:	372.0mm	14.65"
Depth (incl. connectors):	418.0mm	16.56"
Weight:	13.0Kg	28.6lbs

Specifications

Input Voltage Range:	100-240VAC
Maximum Output Power:	375W
Operating Temperature:	0-50°C



Input Crib Sheet

Inputs
to _____

Notes:

--	--	--	--	--	--	--	--

Input No





Midas Consoles Japan Division ダイヤルイン : 03-6661-3801
URL:<http://www.midasconsolesjapan.com> Email:info@midasconsolesjapan.com



本 社 〒 130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12 TEL 03-6661-3825 FAX 03-6661-3826
大阪営業所 〒 531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-4-14-602 TEL 06-6359-7163 FAX 06-6359-7164
URL:<http://www.bestecaudio.com> Email:info@bestecaudio.com

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する事があります